

第50回
府中市市政世論調査
(概要版)



平成30年
府中市

< 目 次 >

府中市市政世論調査について	1
回答者の概要	2
【住み心地】について	3
■府中市は住みよいところだと感じるか	3
【住まいの環境】について	4
■身近な住まいの環境についての率直な感想	4
【生活の満足度】について	5
■現在の生活にどの程度満足しているか	5
【定住意向】について	6
■今後も府中市に住み続けたいと思うか	6
【市政に対する関心度】について	7
■市政にどの程度関心を持っているか	7
【市への要望】について	8
■府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと	8
【災害に備えた自助・共助の取組み】について	10
■文化センター圏域自主防災連絡会を知っているか	10
■地域（自治会等）の防災活動に参加しているか	10
■災害時の一時避難場所を決めているか	11
■家族で安否確認方法を決めているか	11
■地域（自治会等）で安否確認方法を決めているか	12
■食料・飲料水を備蓄しているか	12
■地域（自治会等）で資機材や備蓄食料を用意しているか	13
■大規模災害を乗り切るために重点を置く活動	13
■自助・共助の促進のために自治体に期待すること	14
【市民協働の推進】について	15
■「協働」という言葉を知っているか	15
■「協働」について興味があるか	15
■協働によるまちづくりを進めるために市が力を入れるべきこと	16
【マイナンバーカードの普及とコンビニ交付の促進】について	17
■マイナンバー制度が始まっていることを知っているか	17
■マイナンバーの通知を知っているか	17
■マイナンバーカードを持っているか	18

■ マイナンバーカードの利用用途で知っているもの	18
■ 住民票の写しなどの証明書をどこで受け取るか	19
【将来の働き方に対する考え方と、高齢者や	
中小企業の勤労者の支援に対する取組み】について	20
■ 現在の働き方について	20
■ 将来の働き方について	20
■ 高齢者就労支援策として力を入れるべきもの	21
■ 重点を置いてほしい中小企業の福利厚生	22
【飼い主のいない猫対策】について	23
■ 「飼い主のいない猫」対策が行われていることを知っているか	23
■ 「飼い主のいない猫」の問題にボランティアとして取り組んでいる	
個人・団体がいることを知っているか	23
■ 「地域猫活動」を知っているか	24
■ 「飼い主のいない猫」がもたらす問題は何か	24
■ 「飼い主のいない猫」が増える原因は何か	25
■ 「飼い主のいない猫」対策として有効と考えるもの	26
■ 「飼い主のいない猫」対策への協力について	26
【環境問題に対する取組み】について	27
■ 環境に関する取組み	27
【生物多様性地域戦略】について	28
■ 「生物多様性」という言葉を知っているか	28
■ 生物多様性保全活動に参加したいか	28
■ 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること	29
【地区図書館】について	29
■ 市内12か所の地区図書館があることを知っているか	29
■ この1年以内に地区図書館を利用したか	30
■ 地区図書館に望むこと	30
【若者の自立】について	31
■ ひきこもりの若者が増えていると思うか	31
■ 家族の中に「ひきこもり」の状態に当てはまる人がいるか	32
■ 「ひきこもり」に必要な支援	34

府中市市政世論調査について

府中市で、毎年実施してまいりました世論調査も、今回で第50回となります。

この世論調査は、市政に対するご意見・ご要望をお聞きし、諸施策に対する市民の皆様の考えを把握することによって、今後の市政運営上の参考にさせていただくことを目的としております。

今回は市政全般のほか、「災害に備えた自助・共助の取組み」「市民協働の推進」「マイナンバーカードの普及とコンビニ交付の促進」「将来の働き方に対する考え方と、高齢者や中小企業の勤労者の支援に対する取組み」「飼い主のいない猫対策」「環境問題に対する取組み」「生物多様性地域戦略」「地区図書館」「若者の自立」についてお聞きしました。

本書は、調査結果の一部をまとめた概要版です。

ご協力いただきました市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

調査の方法

調査の地域	: 府中市全域
調査対象者	: 府中市在住の満18歳以上の男女
標本数	: 1,500人
抽出方法	: 地点を用いた二段抽出法 (住民基本台帳の登録人口を11の地区に分け、その構成比により無作為に抽出する方法)
調査方法	: 郵送法(郵送配布、郵送回収)
調査期間	: 平成30年5月11日(金)～平成30年7月13日(金)
回収数(率)	: 1,021(68.1%)

調査の内容

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 住み心地 | 10. 将来の働き方に対する考え方と、高齢者や中小企業の勤労者の支援に対する取組み |
| 2. 住まいの環境 | |
| 3. 生活の満足度 | 11. 飼い主のいない猫対策 |
| 4. 定住意向 | 12. 環境問題に対する取組み |
| 5. 市政に対する関心度 | 13. 生物多様性地域戦略 |
| 6. 市への要望 | 14. 地区図書館 |
| 〈第50回特設設問〉 | 15. 若者の自立 |
| 7. 災害に備えた自助・共助の取組み | |
| 8. 市民協働の推進 | |
| 9. マイナンバーカードの普及とコンビニ交付の促進 | |

注意事項 本書をご覧になる場合、次の点に注意してください。

- (1) 百分率(%)の計算は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。このため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)に表示された百分率を足し合わせても100%にならない場合があります。また、複数回答(2つ以上選んでよい設問)の設問の場合、百分率を足し合わせると100%を超える場合があります。
- (2) 図、表に表示された「n」は、各設問に対する回答者数を表します。

回答者の概要

回答数 1,021 件の属性別回答者数と構成比を表します。

〔性別〕

	回答者数(人)	構成比(%)
男性	480	47.0
女性	533	52.2
(無回答)	8	0.8

〔職業〕

	回答者数(人)	構成比(%)
事務職	120	11.8
専門・技術職	195	19.1
労務・サービス職	91	8.9
役員・管理職	65	6.4
商・工・サービス業	38	3.7
自由業	34	3.3
農林漁業	3	0.3
内職・パート・フリーター	133	13.0
主婦(家事専業)	144	14.1
学生	32	3.1
無職	139	13.6
(無回答)	27	2.6

〔未婚・既婚〕

	回答者数(人)	構成比(%)
未婚	236	23.1
既婚(離別・死別含む)	746	73.1
(無回答)	39	3.8

〔ライフステージ〕

	回答者数(人)	構成比(%)
独身期	140	13.7
家族形成期	113	11.1
家族成長前期	135	13.2
家族成長後期・家族成熟期	181	17.7
高齢期	101	9.9
高齢者世帯	137	13.4
その他	164	16.1
(無回答)	50	4.9

〔年齢〕

	回答者数(人)	構成比(%)
18~29歳	112	11.0
30~39歳	170	16.7
40~49歳	217	21.3
50~59歳	210	20.6
60~69歳	139	13.6
70歳以上	166	16.3
(無回答)	7	0.7

〔地区〕

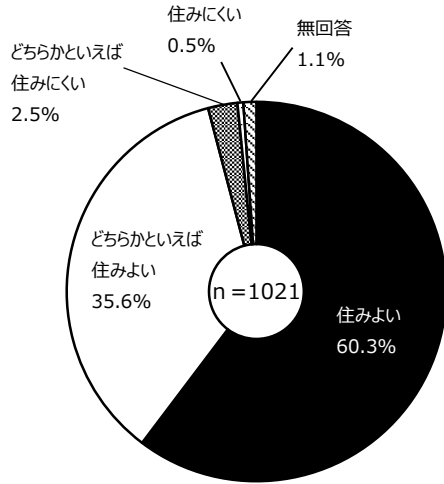
	総人口(人)	対象者数(人)	調査数(人)	回答率(%)	回答者数(人)	構成比(%)
紅葉丘文化センター	22,825	18,949	126	62.7	79	7.7
白糸台文化センター	28,922	24,376	173	57.8	100	9.8
押立文化センター	9,862	8,339	54	77.8	42	4.1
是政文化センター	24,778	20,541	141	69.5	98	9.6
住吉文化センター	26,560	22,006	156	68.6	107	10.5
片町文化センター	30,279	25,848	181	72.4	131	12.8
中央文化センター	41,037	34,673	244	64.3	157	15.4
新町文化センター	26,604	22,452	152	68.4	104	10.2
武蔵台文化センター	14,721	12,557	86	77.9	67	6.6
西府文化センター	18,854	15,295	105	77.1	81	7.9
四谷文化センター	14,125	11,308	82	67.1	55	5.4
総計	258,567	216,344	1,500	68.1	1,021	100.0

上記対象者数は、平成30年4月1日現在の満18歳以上の人口である。

【住み心地】について

■ 府中市は住みよいところだと感じるか (n=1021)

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせると、9割半ばが『府中市は住みよい』と感じている。



「住みよい」(60.3%)と「どちらかといえば住みよい」(35.6%)を合わせた『住みよいと感じる』割合は、9割半ば(95.9%)にのぼる。

また、「住みにくい」(0.5%)と「どちらかといえば住みにくい」(2.5%)を合わせた『住みにくいとを感じる』割合は3.0%である。

図1 住み心地

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた『住みよいと感じる』割合は、年代別では、「70歳以上」(98.2%)が最も高く、「18～29歳」(93.7%)が最も低い。

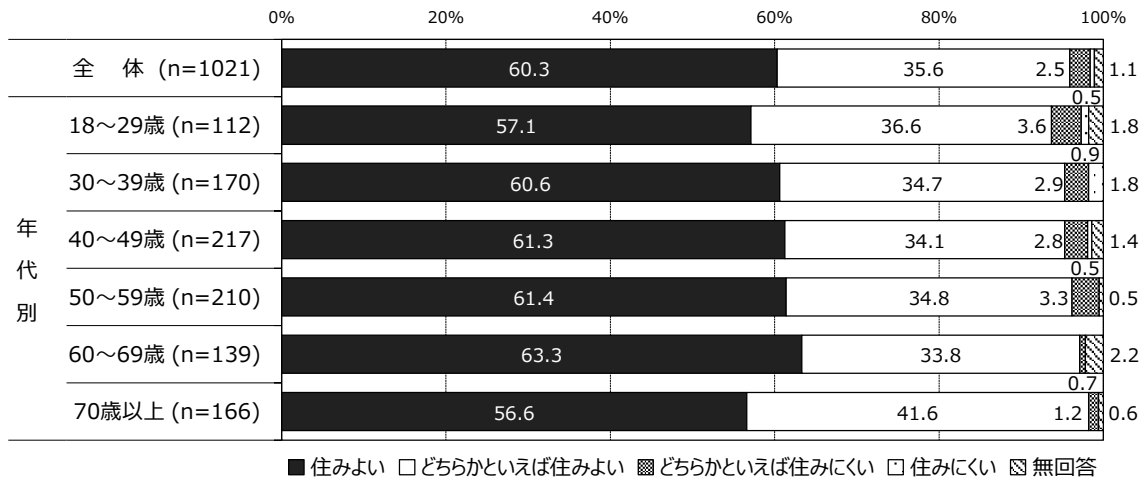


図2 住み心地(年代別)

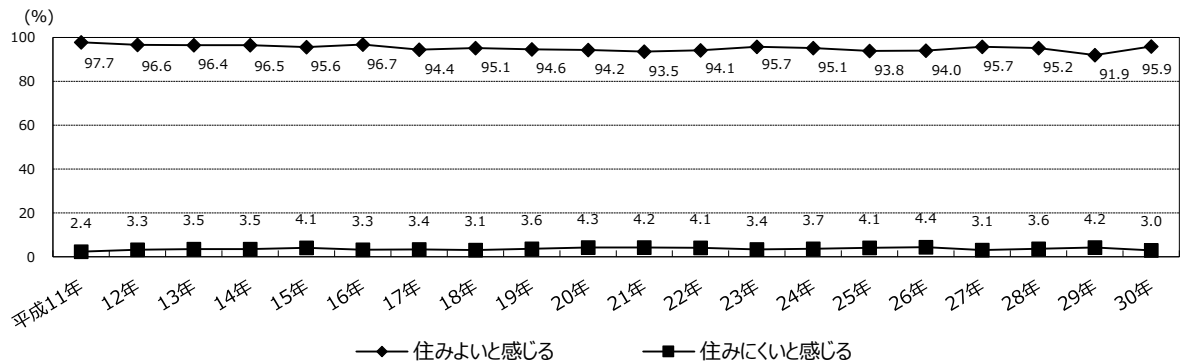


図3 経年別推移

【住まいの環境】について

■ 身近な住まいの環境についての感想 (n=1021)

「非常によい」と「まあよい」を合わせた『よいと感じる住まいの環境』は、「緑の豊かさ」、「風通し、日当たり」、「排水の便」の順になっている。「あまりよくない」と「非常に悪い」を合わせた『よくないと感じる住まいの環境』は、「蚊やハエの発生の防止」、「騒音や振動の防止」、「交通安全対策」の順になっている。

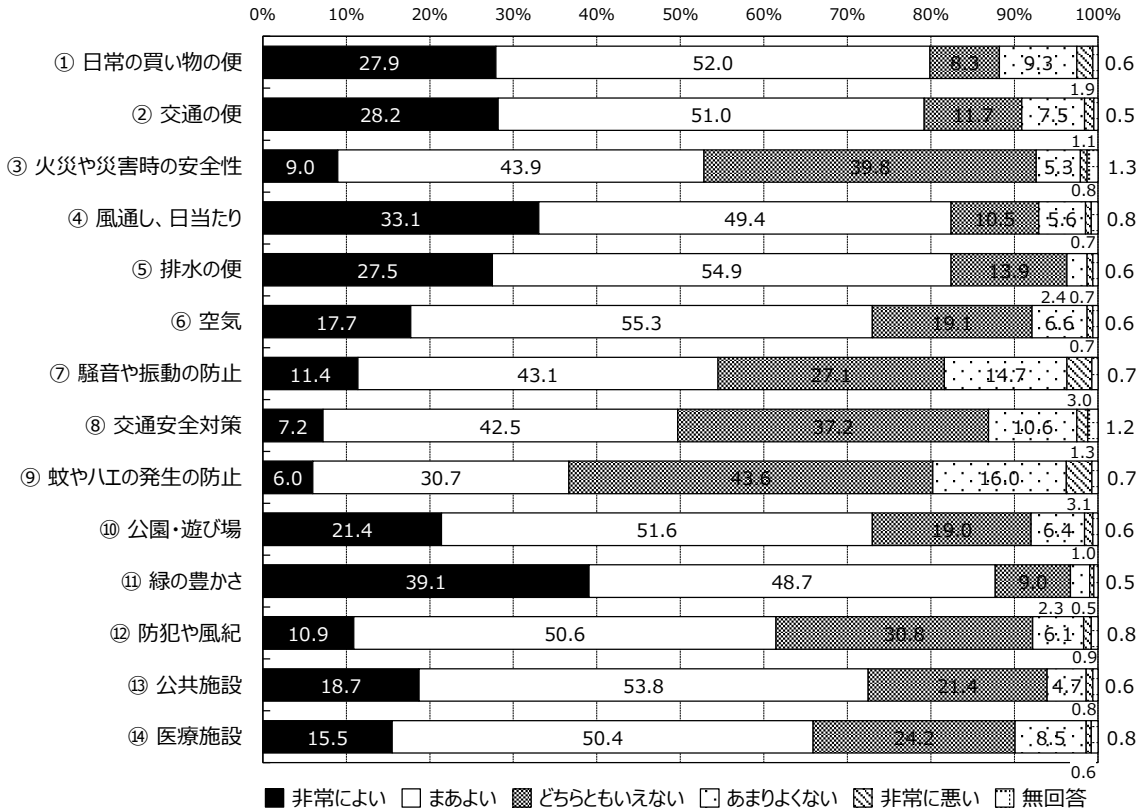


図4 身近な住まいの環境についての感想

順位	住まいの環境	非常によい または まあよい (%)
1位	⑪ 緑の豊かさ	87.8
2位	④ 風通し、日当たり	82.5
3位	⑤ 排水の便	82.4
4位	① 日常の買い物の便	79.9
5位	② 交通の便	79.2
6位	⑥ 空気	73.0
6位	⑩ 公園・遊び場	73.0
8位	⑬ 公共施設	72.5
9位	⑭ 医療施設	65.9
10位	⑫ 防犯や風紀	61.5
11位	⑦ 騒音や振動の防止	54.5
12位	③ 火災や災害時の安全性	52.9
13位	⑧ 交通安全対策	49.7
14位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	36.7

表1 『よい』と感じる割合の順

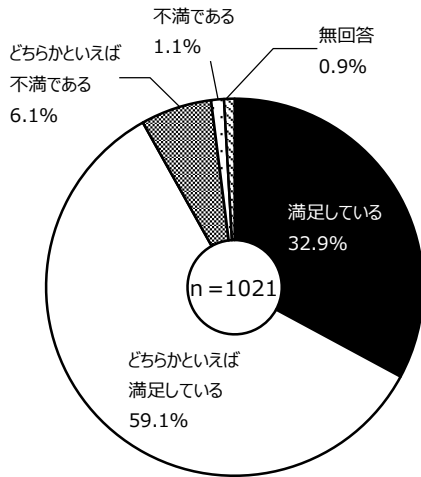
順位	住まいの環境	あまりよくない または 非常に悪い (%)
1位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	19.1
2位	⑦ 騒音や振動の防止	17.7
3位	⑧ 交通安全対策	11.9
4位	① 日常の買い物の便	11.2
5位	⑭ 医療施設	9.1
6位	② 交通の便	8.6
7位	⑩ 公園・遊び場	7.4
8位	⑥ 空気	7.3
9位	⑫ 防犯や風紀	7.0
10位	④ 風通し、日当たり	6.3
11位	③ 火災や災害時の安全性	6.1
12位	⑬ 公共施設	5.5
13位	⑤ 排水の便	3.1
14位	⑪ 緑の豊かさ	2.8

表2 『よくない』と感じる割合の順

【生活の満足度】について

■ 現在の生活にどの程度満足しているか (n=1021)

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、9割以上が『生活に満足している』と感じている。



「満足している」(32.9%)と「どちらかといえば満足している」(59.1%)を合わせた『生活に満足していると感じる』割合は、9割以上を占める(92.0%)。

また、「不満である」(1.1%)と「どちらかといえば不満である」(6.1%)を合わせた『生活に不満を感じる』割合は、1割に満たない(7.2%)。

図5 生活の満足度

年代別では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『生活に満足していると感じる』割合は、「40～49歳」(94.5%)が最も高く、「18～29歳」(88.4%)が最も低い。

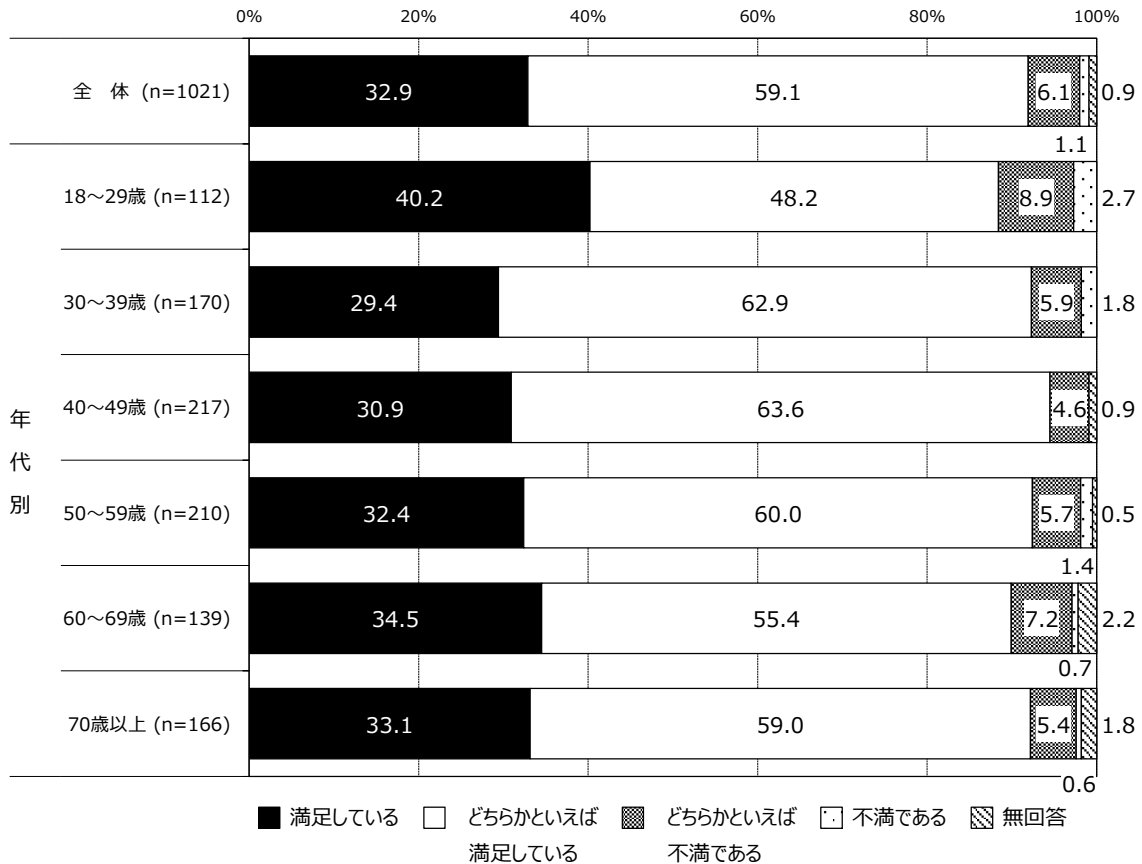
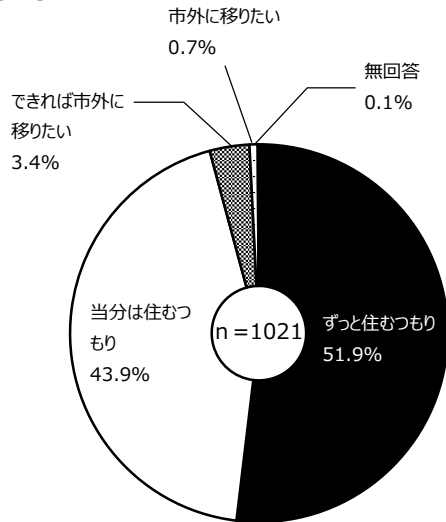


図6 生活の満足度 (年代別)

【定住意向】について

■ 今後も府中市に住み続けたいと思うか (n=1021)

「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせると、9割半ばが『今後も府中市に住み続けたい』と感じている。



「ずっと住むつもり」(51.9%)と「当分は住むつもり」(43.9%)を合わせた『住み続けたいと感じている』割合は、9割半ばを占める(95.8%)。

また、「市外に移りたい」(0.7%)と「できれば市外に移りたい」(3.4%)を合わせた『市外に移りたいと感じている』割合は、4.1%である。

図7 定住意向

年代別では、「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせた『住み続けたいと感じている』割合は、「70歳以上」(97.0%)が最も高く、「18～29歳」(91.1%)が最も低い。

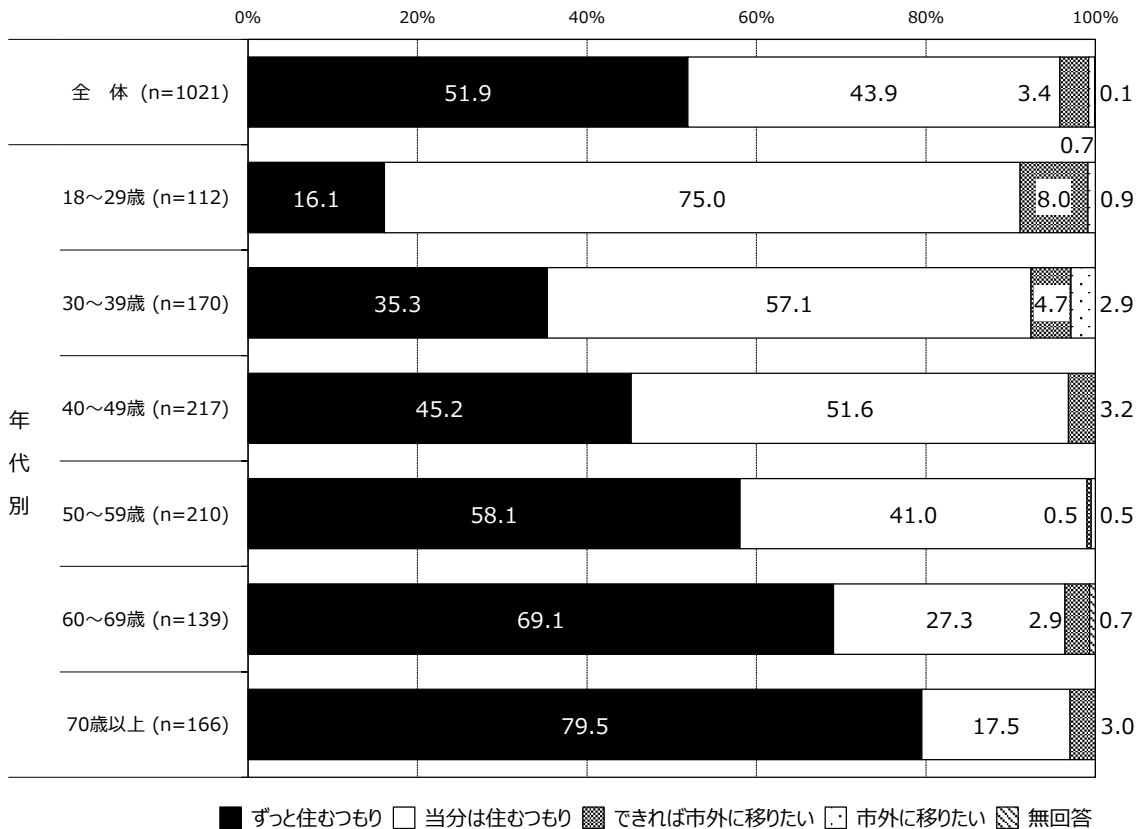
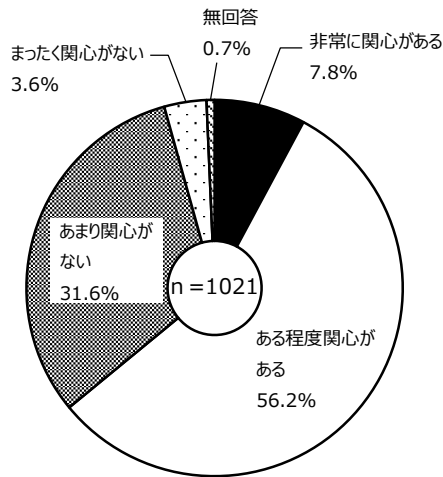


図8 定住意向 (年代別)

【市政に対する関心度】について

■ 市政にどの程度関心を持っているか (n=1021)

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると、6割半ばが市政に関心を持っている。



「非常に関心がある」(7.8%)と「ある程度関心がある」(56.2%)を合わせた『市政に関心がある』割合は 64.0%で、6割半ばが市政に関心を持っている。

一方、『市政に関心がない』割合は、「まったく関心がない」(3.6%)と「あまり関心がない」(31.6%)を合わせた 35.2%である。

図 9 市政に対する関心度

年代別では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『市政に関心がある』割合は、「70歳以上」(82.5%)が最も高く、「18～29歳」(34.0%)が最も低い。

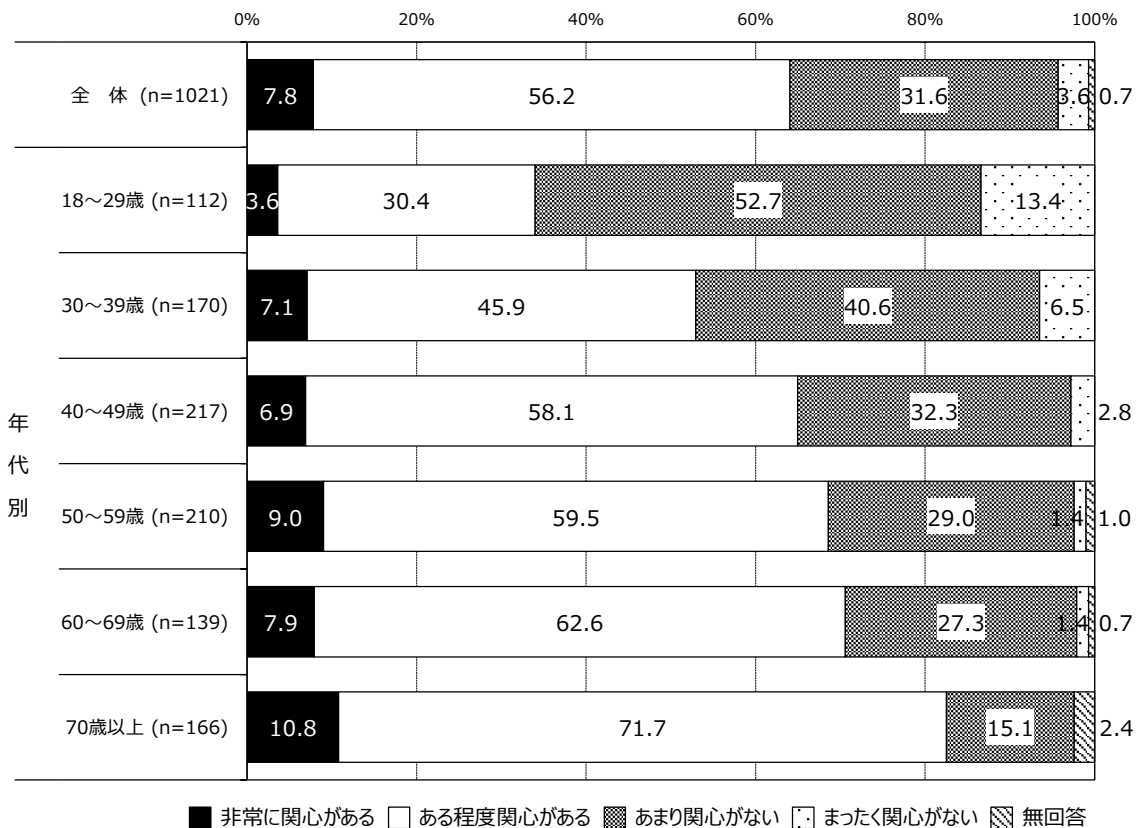


図 10 市政に対する関心度(年代別)

【市への要望】について

■ 府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと（n=1021：複数回答）

「高齢者福祉対策」(35.5%)、「防犯・風紀対策」(26.9%)、「市民の健康管理対策」(17.8%)、「学校施設の整備」(15.3%)の順で高い。

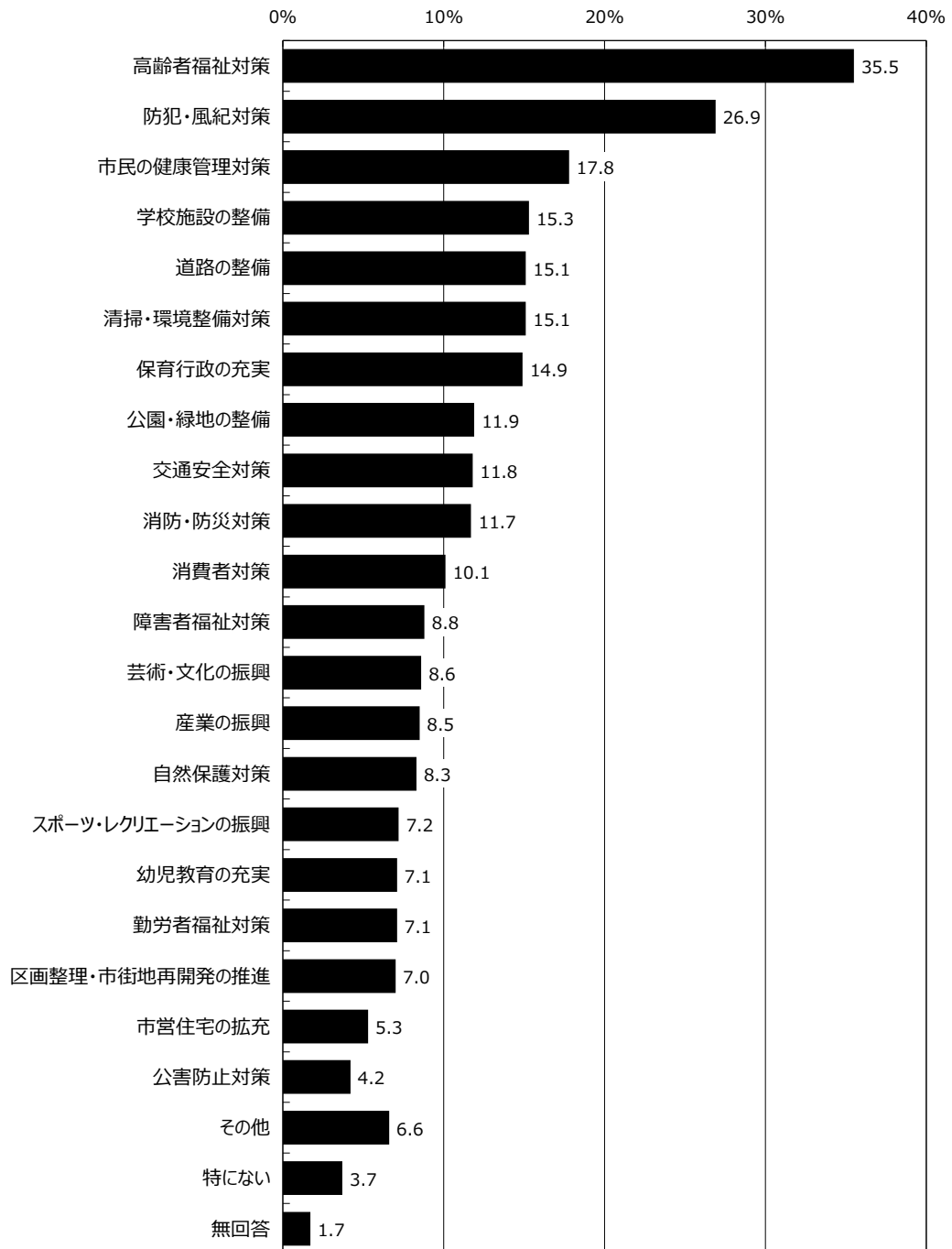


図 11 市への要望

上位5項目について平成21年度からの順位変動を見ると、今年度1位の「高齢者福祉対策」は、常に1位となっている。2位の「防犯・風紀対策」は、常に上位3位に入っており、3位の「市民の健康管理対策」は、毎年上位5位に入っている。4位の「学校施設の整備」は今年初めて上位5位に入っている。5位の「道路の整備」は27年度より上位5位に入っている。

	n	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年	1021	高齢者福祉対策 35.5%	防犯・風紀対策 26.9%	市民の健康管理対策 17.8%	学校施設の整備 15.3%	道路の整備/ 清掃・環境整備対策 15.1%
29年	1103	高齢者福祉対策 35.3%	防犯・風紀対策 24.2%	市民の健康管理対策 17.4%	道路の整備 17.0%	保育行政の充実 15.4%
28年	996	高齢者福祉対策 34.8%	防犯・風紀対策 22.5%	市民の健康管理対策 19.7%	保育行政の充実 18.6%	道路の整備 15.0%
27年	824	高齢者福祉対策 35.2%	防犯・風紀対策 23.7%	市民の健康管理対策 18.4%	清掃・環境整備対策 15.7%	道路の整備/ 保育行政の充実 14.3%
26年	844	高齢者福祉対策 41.6%	防犯・風紀対策 29.1%	市民の健康管理対策 18.5%	清掃・環境整備対策 16.1%	保育行政の充実 14.3%
25年	836	高齢者福祉対策 38.2%	防犯・風紀対策 24.5%	清掃・環境整備対策 18.7%	市民の健康管理対策 17.5%	消防・防災対策 14.2%
24年	846	高齢者福祉対策 35.6%	防犯・風紀対策 28.1%	市民の健康管理対策 17.8%	交通安全対策 17.3%	消防・防災対策 15.2%
23年	835	高齢者福祉対策 34.4%	防犯・風紀対策 26.7%	清掃・環境整備対策 18.1%	市民の健康管理対策 17.0%	消防・防災対策 16.4%
22年	889	高齢者福祉対策 43.5%	市民の健康管理対策 27.0%	防犯・風紀対策 21.9%	清掃・環境整備対策 19.6%	自然保護対策/ 消費者対策 15.7%
21年	881	高齢者福祉対策 42.0%	防犯・風紀対策 27.0%	清掃・環境整備対策 26.6%	市民の健康管理対策 20.0%	消費者対策 16.1%

表3 経年推移(上位5位)

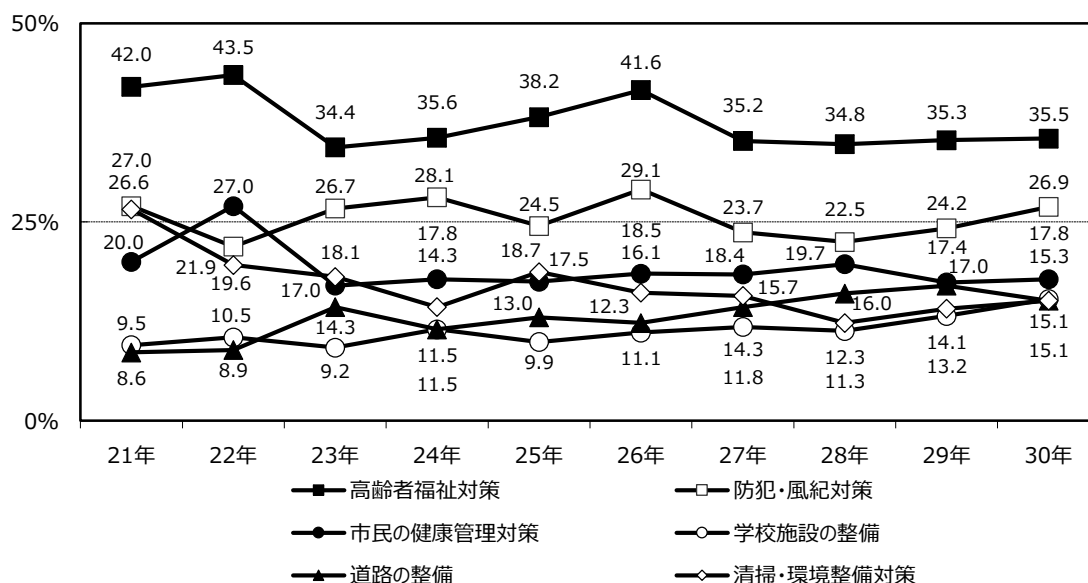


図12 経年推移(上位5位)

【災害に備えた自助・共助の取組み】について

■文化センター圏域自主防災連絡会を知っているか (n=1021)

「知らない」(74.8%)が7割を超えている。続いて、「名前は知っているが、活動内容は知らない」(21.1%)、「よく知っている」(3.7%)となっている。

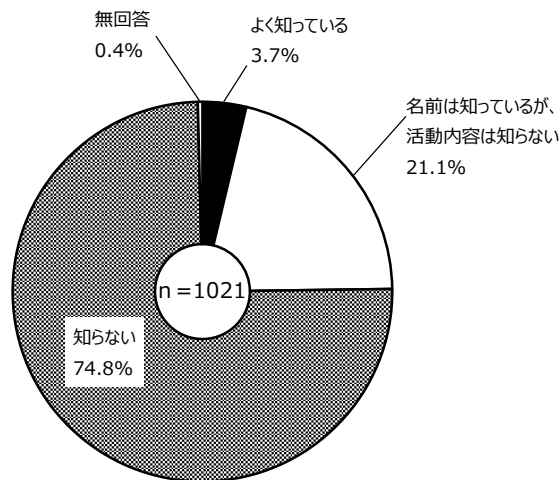
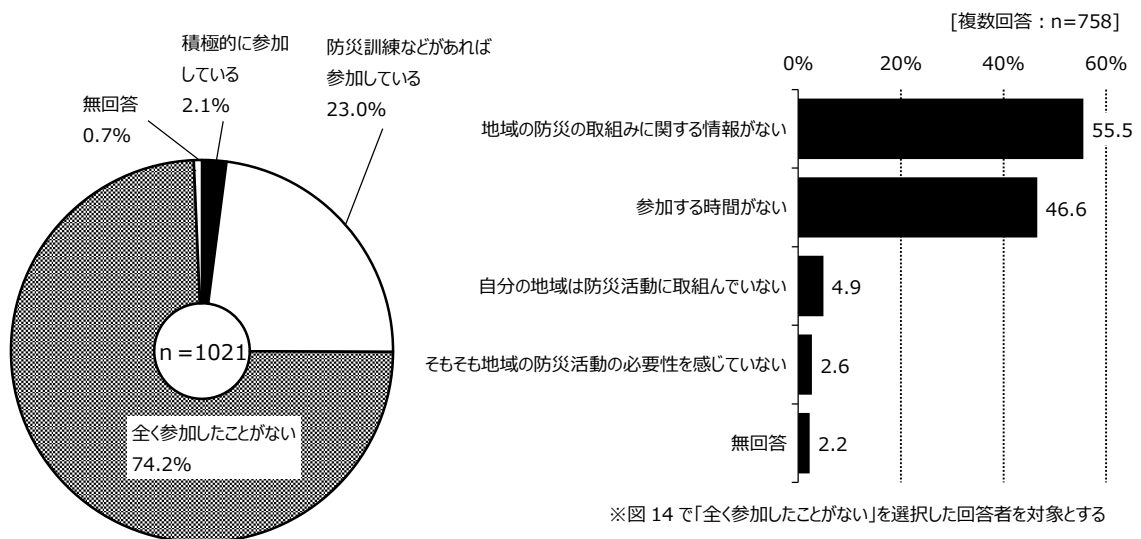


図 13 文化センター圏域自主防災連絡会を知っているか

■地域（自治会等）の防災活動に参加しているか (n=1021)

「全く参加したことがない」(74.2%)が最も高く、7割を超えている。続いて、「防災訓練などがあれば参加している」(23.0%)、「積極的に参加している」(2.1%)となっている。

また、参加しない理由として、「地域の防災の取組みに関する情報がない」(55.5%)が最も高くなっている。続いて、「参加する時間がない」(46.6%)、「自分の地域は防災活動に取組んでいない」(4.9%)、「そもそも地域の防災活動の必要性を感じていない」(2.6%)の順となっている。



※図 14 で「全く参加したことがない」を選択した回答者を対象とする

図 14 地域（自治会等）の防災活動に参加しているか

図 15 地域（自治会等）の防災活動に参加しない理由

■ 災害時の一時避難場所を決めているか (n=1021)

「家族で決めている」と「地域（自治会等）で決めている」を合わせた『決めている』割合が5割を超える（58.4%）。

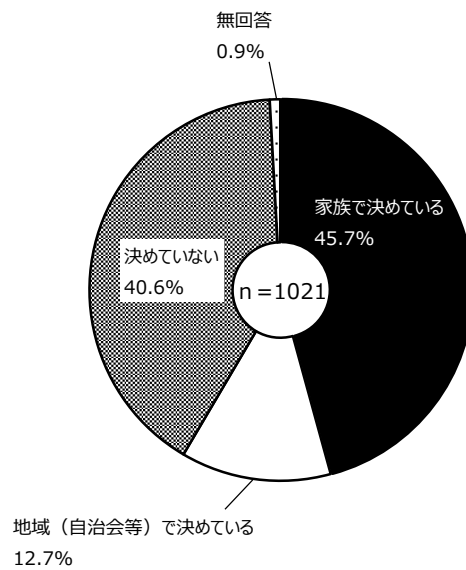


図 16 災害時の一時避難場所を決めているか

■ 家族で安否確認方法を決めているか (n=1021)

「決めていない」（59.8%）が6割を占め、「決めている」（39.1%）は4割程度となっている。

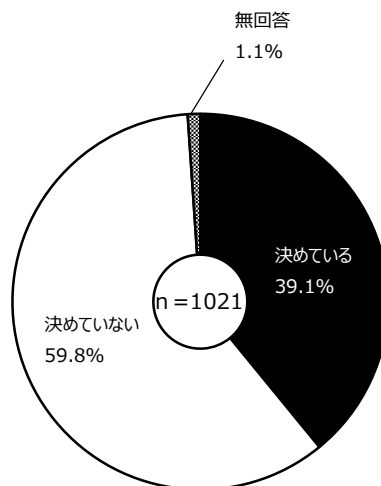


図 17 家族で安否確認方法を決めているか

■ 地域（自治会等）で安否確認方法を決めているか（n=1021）

「知らない」（76.7%）が7割以上を占めており、「決めていない」（11.6%）、「決めている」（10.9%）の順になっている。

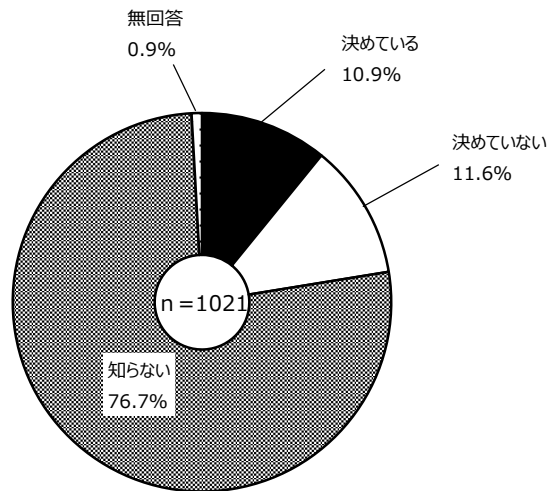


図 18 地域（自治会等）で安否確認方法を決めているか

■ 食料・飲料水を備蓄しているか（n=1021）

「3日間分程度備蓄している」（48.3%）が最も高くなっており、約5割を占めている。続いて、「備蓄していない」（43.1%）、「一週間分程度備蓄している」（7.8%）となっている。

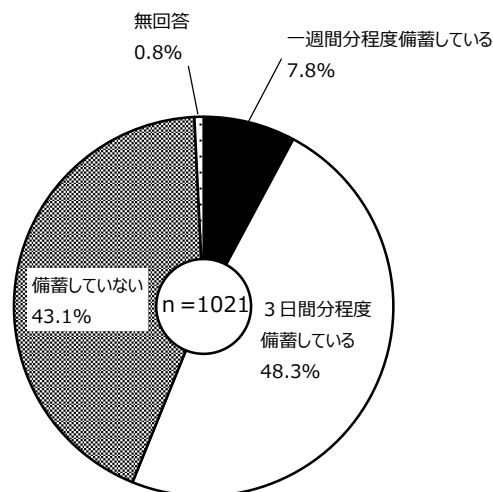


図 19 食料・飲料水を備蓄しているか

■ 地域（自治会等）で資機材や備蓄食料を用意しているか（n=1021）

「知らない」（72.2%）が最も高く、続いて、「地域（自治会等）で食糧や飲料水を備蓄している」（10.8%）、「地域（自治会等）で救助用の資機材も持っているし、食料や飲料水も備蓄している」（6.5%）、「何も用意していない」（5.8%）、「地域（自治会等）で救助用の資機材等を持っている」（3.1%）となっている。

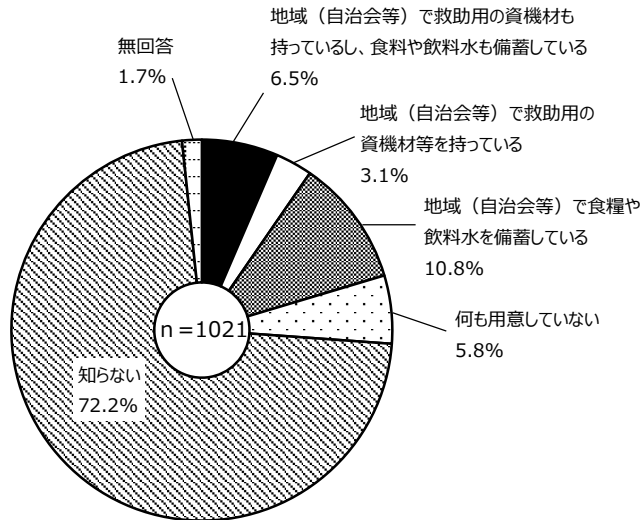


図 20 地域（自治会等）で資機材や備蓄食料を用意しているか

■ 大規模災害を乗り越えるために重点を置く活動（n=1021）

「自助、共助、公助のバランスが取れた活動をすべきである」（76.8%）が最も高く、続いて、「自助に重点を置いた活動をすべきである」（9.9%）、「共助に重点を置いた活動をすべきである」（7.1%）、「公助に重点を置いた活動をすべきである」（4.2%）となっている。

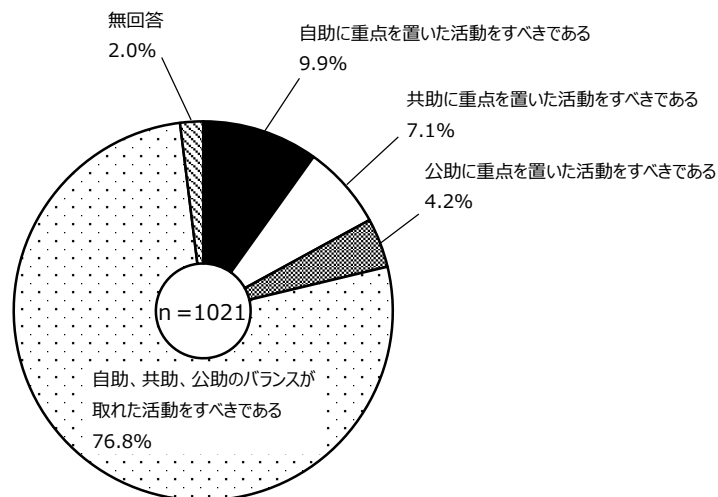


図 21 大規模災害を乗り越えるために重点を置く活動

■ 自助・共助の促進のために自治体に期待すること（n=1021：複数回答）

「災害に備えた組織づくり、体制づくりの援助」（44.5%）、「防災グッズ、資機材の配布」（41.6%）、「マニュアル・ガイドラインづくり」（40.5%）の順になっている。

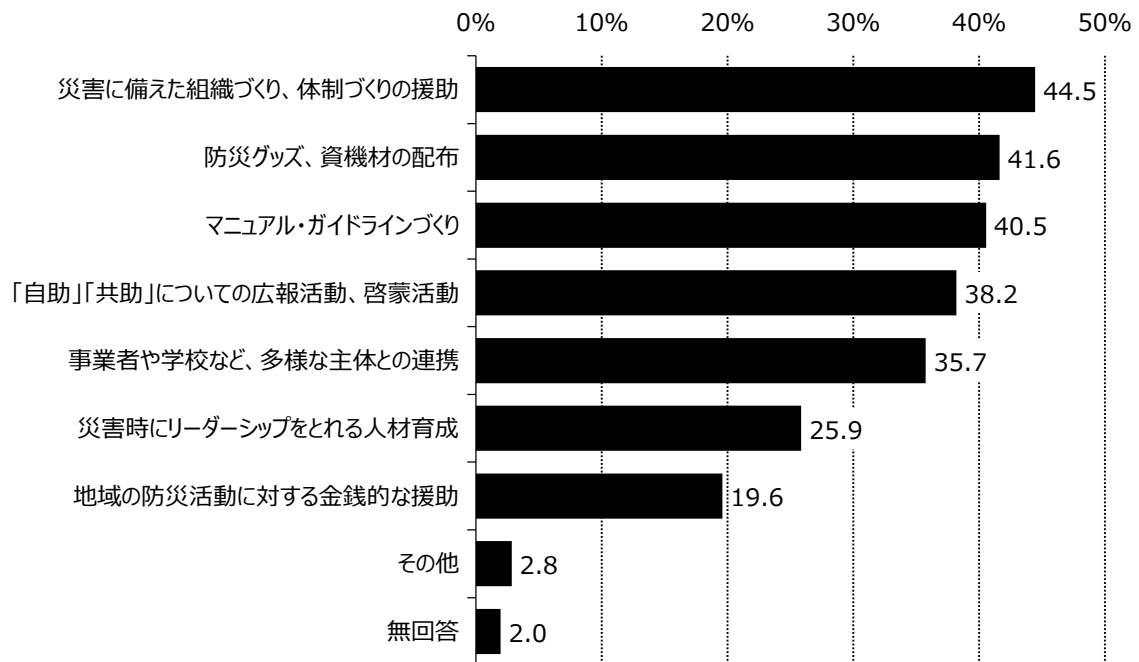


図 22 自助・共助の促進のために自治体に期待すること

【市民協働の推進】について

■「協働」という言葉を知っているか (n=1021)

「言葉も意味も知らない」(51.1%) が最も高い。「聞いたことはあるが内容までは知らなかった」(33.6%) は3割程度あり、「言葉も意味も知っている」(14.7%) は1割半ばとなっている。

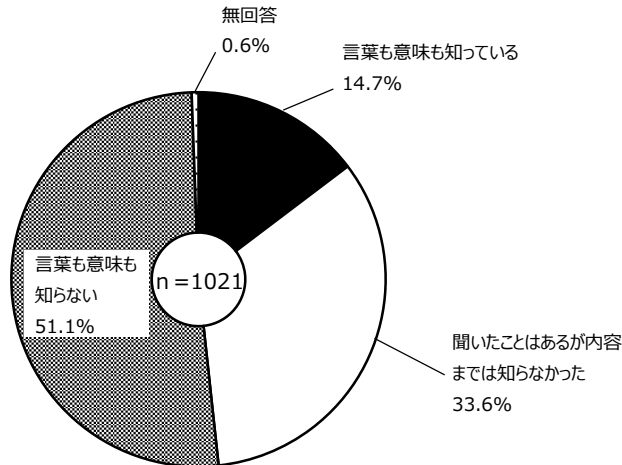


図 23 「協働」という言葉を知っているか

■「協働」について興味があるか (n=1021)

「少し興味がある」(36.2%) が最も高く、続いて、「あまり興味がない」(28.1%)、「わからない」(19.0%)、「興味があるので、いろいろ知りたい」(9.0%) となっている。

また、理解を深めたいものとしては、「具体的な協働事業とその成果」(84.6%) が最も高い。続いて、「協働に関する制度(協働事業提案制度、協働事業評価制度)」(28.1%)、「協働の必要性について」(27.9%) となっている。

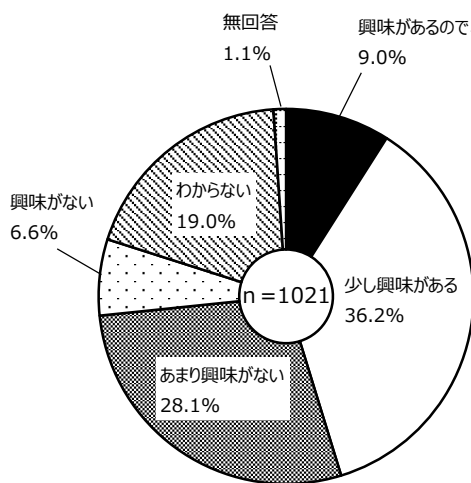
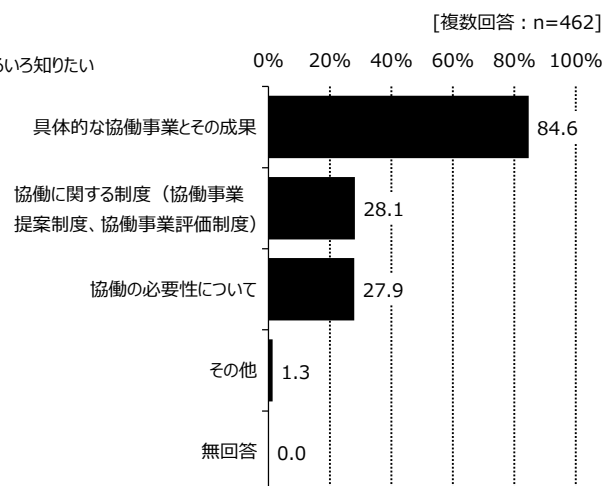


図 24 「協働」について興味があるか



※図 24 で「興味があるので、いろいろ知りたい」「少し興味がある」を選択した回答者を対象とする

図 25 「協働」について理解を深めたいと思うもの

■ 協働によるまちづくりを進めるために市が力を入れるべきこと（n=1021：複数回答）

「具体的な協働事業や協働で得られた成果などの具体的な取組みの掲載や、協働に関する制度や相談窓口をわかりやすくするなど、市のホームページの協働に関するコンテンツを充実させる」（42.1%）が最も高く4割を超えている。続いて、「提案型協働事業を市民がより利用しやすくなるよう、制度や周知方法の見直しを図る」（40.3%）、「小さな会場で、地域の身近な課題について話し合えるような事業を行う」（26.6%）、「職員が地域活動や市民活動など公益的な活動に参加しやすい環境を作る」（26.1%）となっている。

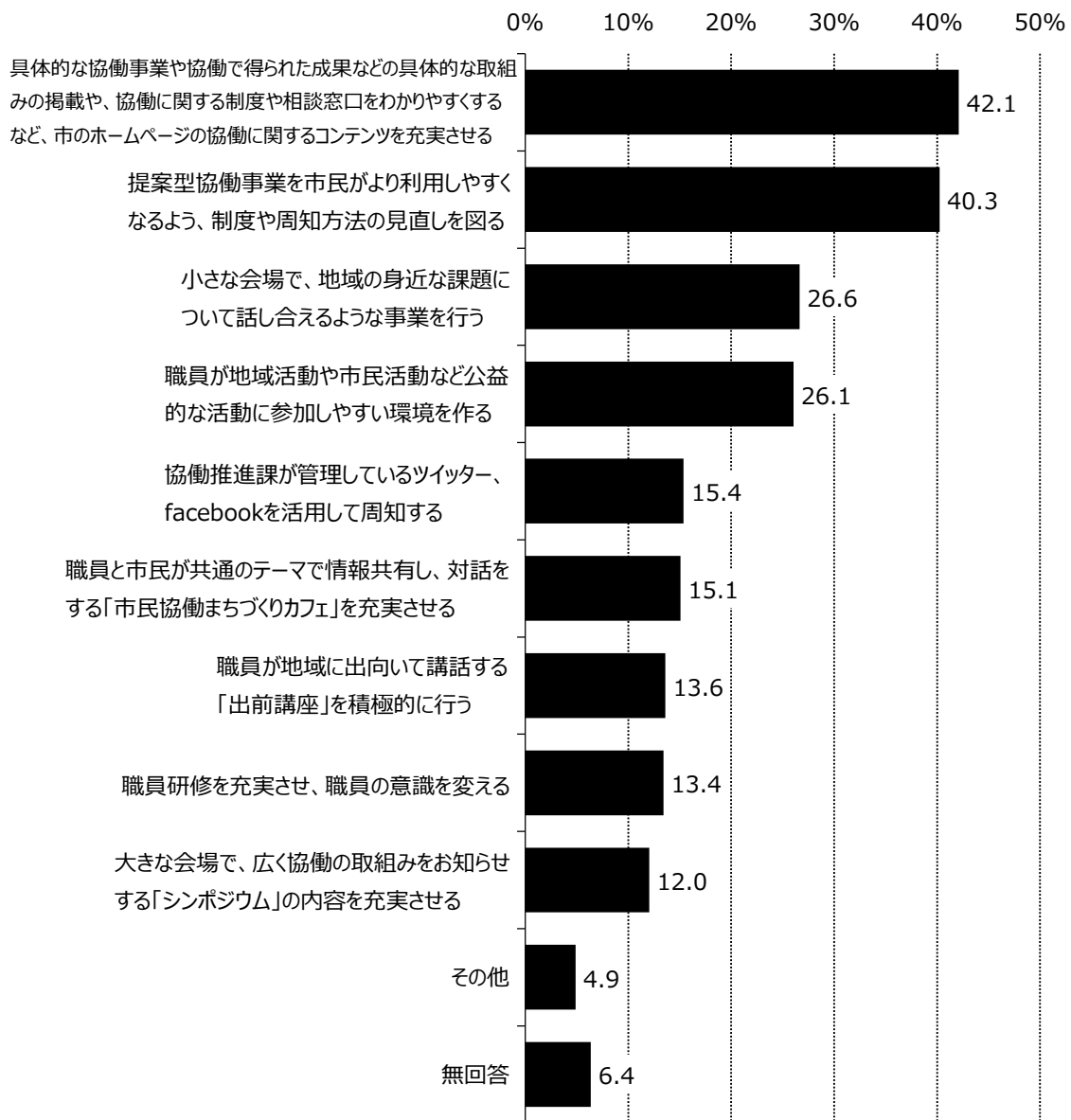


図 26 協働によるまちづくりを進めるために市が力を入れるべきこと

【マイナンバーカードの普及とコンビニ交付の促進】について

■ マイナンバー制度が始まっていることを知っているか (n=1021)

「知っている」(98.2%) が最も高く、9割半ばを超えている。

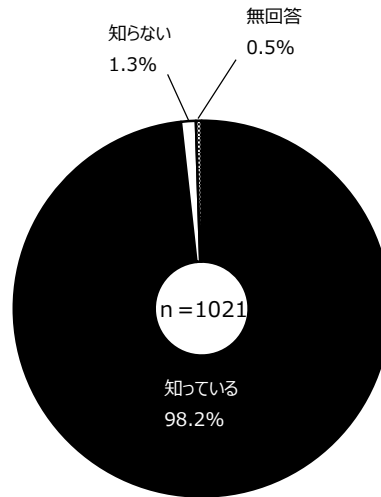


図 27 マイナンバー制度が始まっていることを知っているか

■ マイナンバーの通知を知っているか (n=1021)

「知っている」(97.6%) が最も高く、9割半ばを超えている。

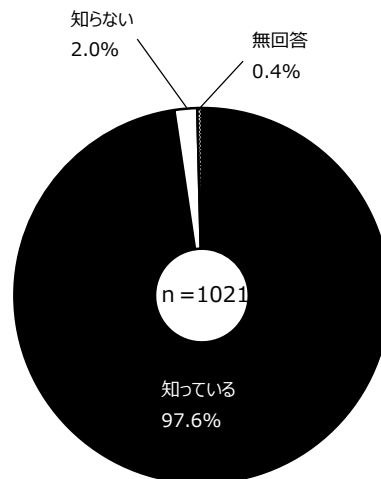


図 28 マイナンバーの通知を知っているか

■ マイナンバーカードを持っているか (n=1021)

「持っていない」(65.6%)が最も高く、「持っている」(33.3%)は3割程度となっている。

また、マイナンバーカードを持っていない理由について、「必要性を感じないから」(62.5%)が最も高く、続いて、「取得手続きが面倒だから」(36.9%)、「申請の手続きや受け取りに行く時間がないから」(19.1%)となっている。

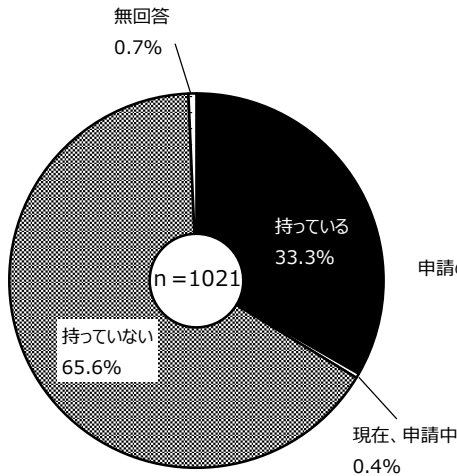
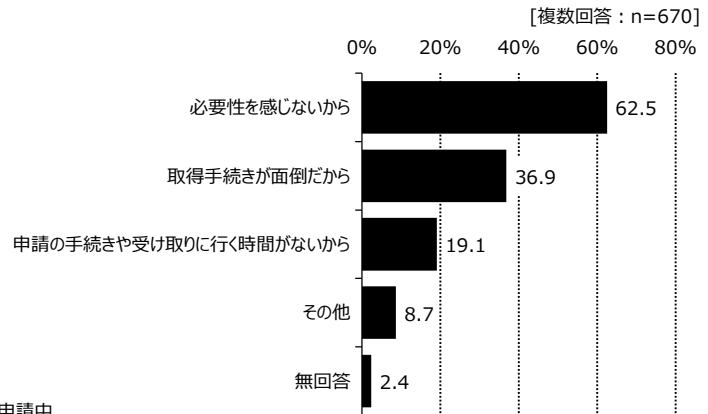


図 29 マイナンバーカードを持っているか



※図 29 で「持っていない」を選択した回答者を対象とする

図 30 マイナンバーカードを持っていない理由

■ マイナンバーカードの利用用途で知っているもの (n=1021：複数回答)

「運転免許証やパスポートと同様に本人確認の際に公的な身分証明として利用できる」(80.7%)、「自分のマイナンバー（個人番号）を証明する書類として利用できる」(79.0%)の順で高く、約8割となっている。

また、マイナンバーカードを利用しコンビニでの証明書の発行を利用したことはあるかについて、「知っているが利用したことはない」(94.9%)が9割半を占めている。

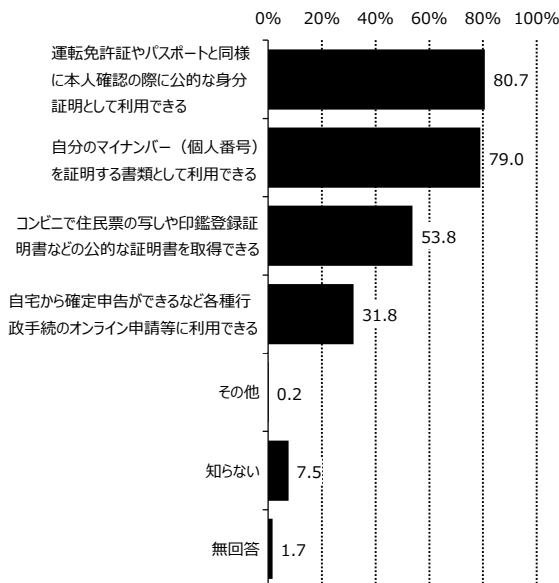
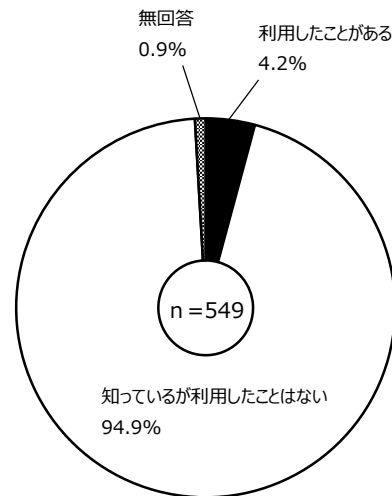


図 31 マイナンバーカードの利用用途で知っているもの



※図 31 で「コンビニで住民票の写しや印鑑登録証明書などの公的な証明書を取得できる」を選択した回答者を対象とする

図 32 コンビニでの証明書の発行を利用したことはあるか

■ 住民票の写しなどの証明書をどこで受け取るか (n=1021)

「よく利用する」と「たまに利用する」を合わせた『利用する』割合は、「市役所や文化センターの窓口」(90.3%) が最も高く、9割を超えている。続いて、「自動交付機」(36.3%)、「コンビニ」(3.5%) となっている。

また、自動交付機が廃止となった場合、どのように思うかについて、「非常に不便」と「不便」を合わせた『不便だと思う』割合は6割を超えている(62.3%)。「特に問題ない(市役所や文化センターの窓口を利用するから)」と「特に問題ない(コンビニ証明交付を利用するから)」を合わせた『特に問題ないと思う』割合は3割程度となっている(29.9%)。

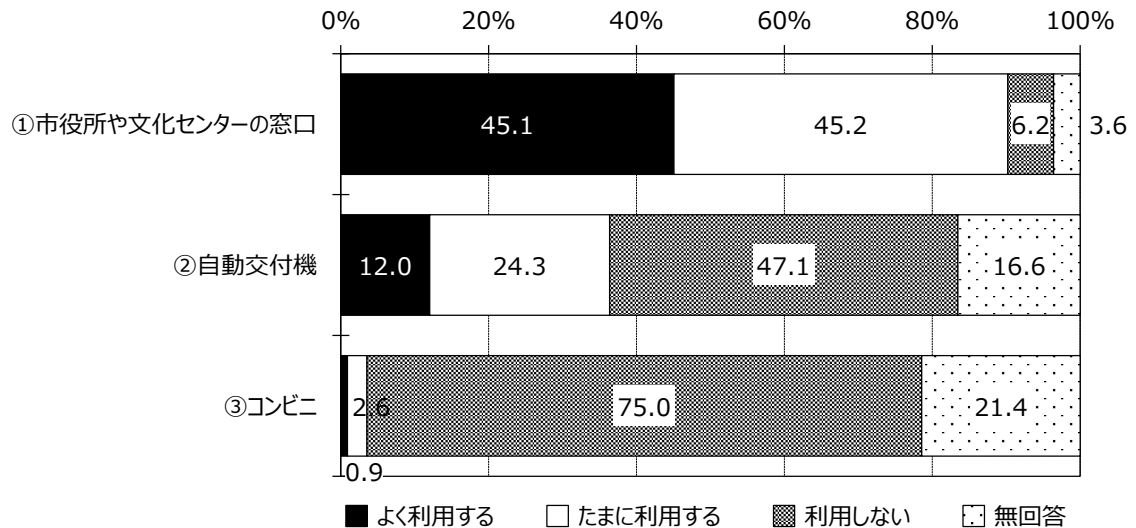
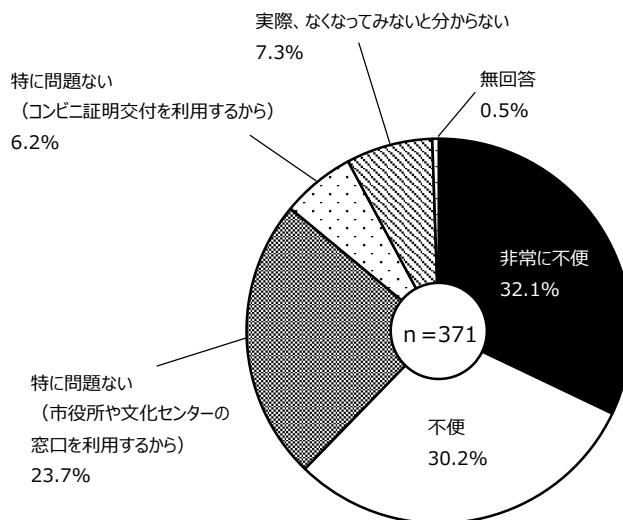


図 33 住民票の写しなどの証明書をどこで受け取るか



※図 33 で②自動交付機を「よく利用する」
「たまに利用する」を選択した回答者を対象とする

図 34 自動交付機が廃止となった場合どのように思うか

【将来の働き方に対する考え方と、高齢者や中小企業の勤労者の支援に対する取組み】について

■現在の働き方について（n=1021：複数回答）

「企業などで働いている」（46.2%）が最も高く、5割近くを占めている。

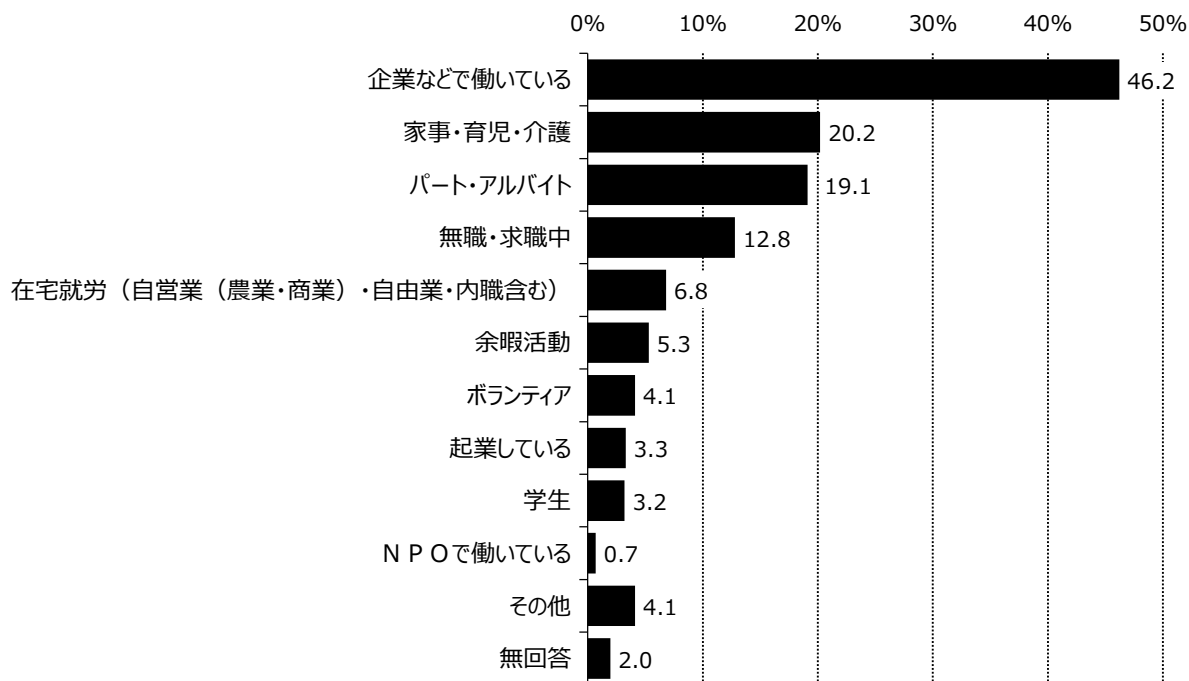


図 35 現在の働き方について

■将来の働き方について（n=1021：複数回答）

「企業などで働く」（48.6%）が最も高く、現在の働き方と比較すると、「家事・育児・介護」と「学生」以外は増加している。

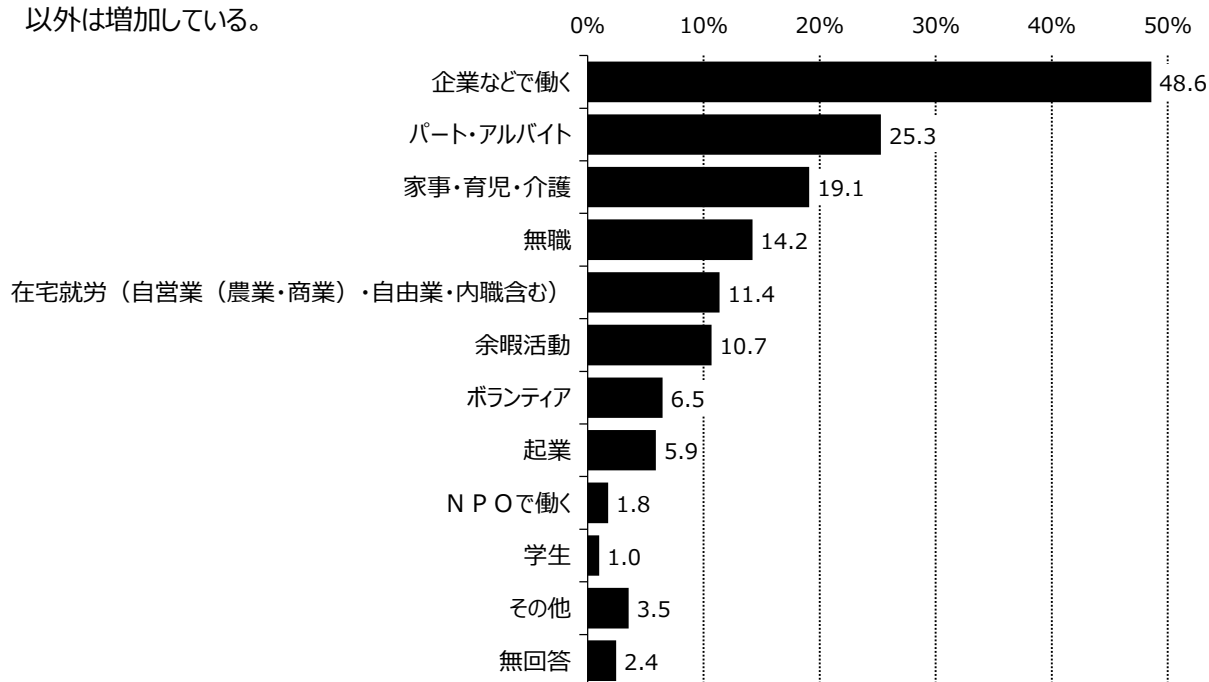


図 36 将来の働き方について

■ 高齢者就労支援策として力を入れるべきもの（n=1021：複数回答）

「高齢者に適した仕事や職業の開拓など職業紹介を充実する」（61.1%）、「高齢者の就業を支援するため、ハローワーク、シルバー人材センター、労働基準監督署などの関係機関との連携協力体制を充実させる」（49.5%）、「高齢者を積極的に雇用する地元企業を支援する」（47.5%）の順になっている。

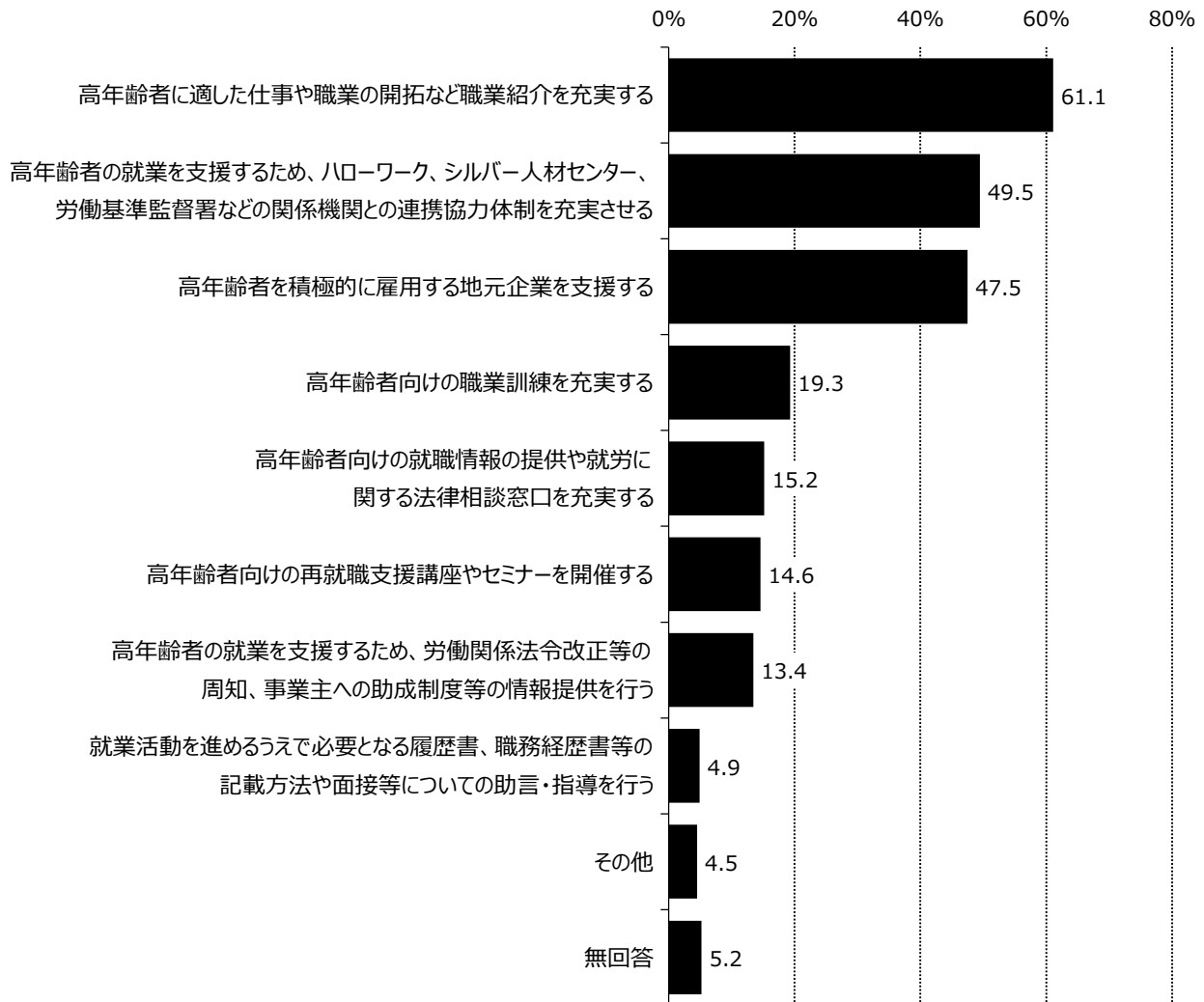


図 37 高齢者就労支援策として力を入れるべきもの

■ 重点を置いてほしい中小企業の福利厚生（n=1021：複数回答）

「健康管理・維持増進（健康セミナー開催、健康診断・人間ドック・インフルエンザ予防接種の補助・助成）」（71.7%）が最も高い。次いで、「住宅（住宅手当や家賃補助）」（39.4%）、「レジャー関連の利用補助（宿泊施設補助、レジャー施設の入場割引、コンサート・スポーツ観戦のチケットあつせん）」（30.3%）、「生活支援（市内会員事業所の利用割引や優待サービス）」（26.7%）となる。

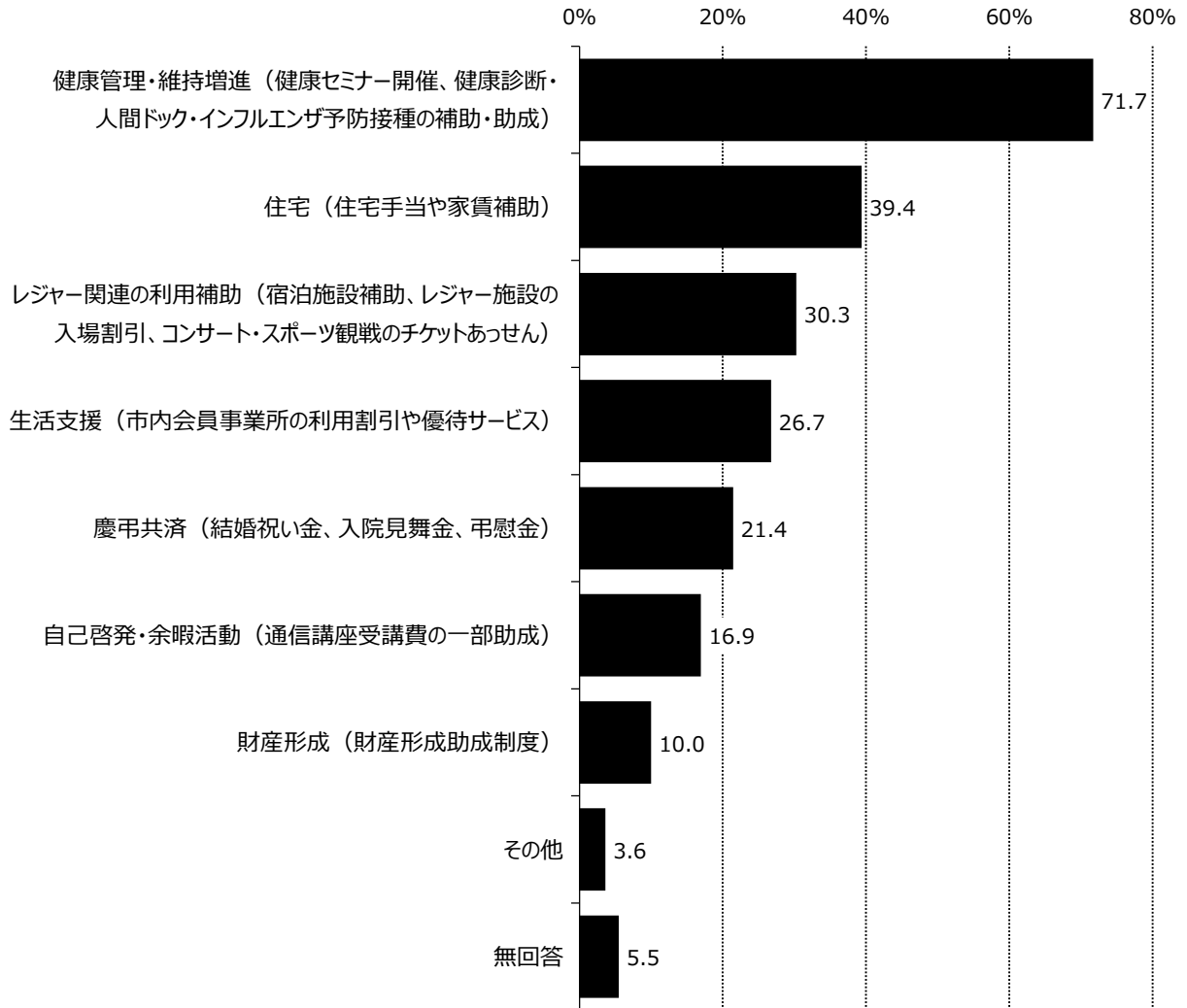


図 38 重点を置いてほしい中小企業の福利厚生

【飼い主のいない猫対策】について

■「飼い主のいない猫」対策が行われていることを知っているか (n=1021)

「知らない」(85.8%) が最も高く、8割半ばを占めている。

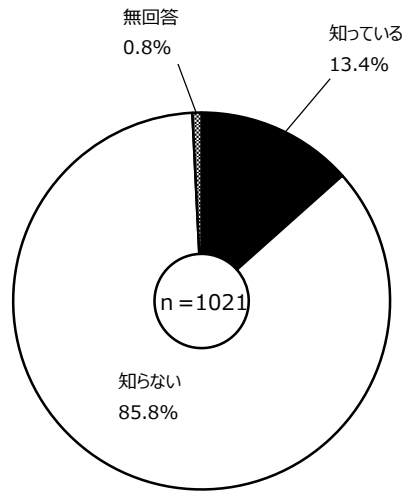


図 39 「飼い主のいない猫」対策が行われていることを知っているか

■「飼い主のいない猫」の問題にボランティアとして取組んでいる個人・団体がいることを知っているか (n=1021)

「知らない」(77.3%) が最も高い。

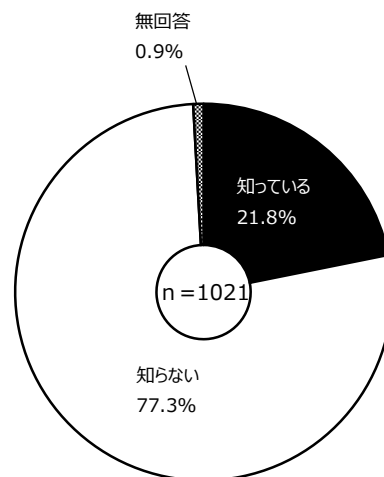


図 40 「飼い主のいない猫」の問題にボランティアとして取組んでいる個人・団体がいることを知っているか

■「地域猫活動」を知っているか（n=1021）

「知らない」（79.3%）が8割近くを占めており、続いて、「知っているが、内容は分からない」（12.1%）、「知っており、内容を理解している」（7.4%）の順になっている。

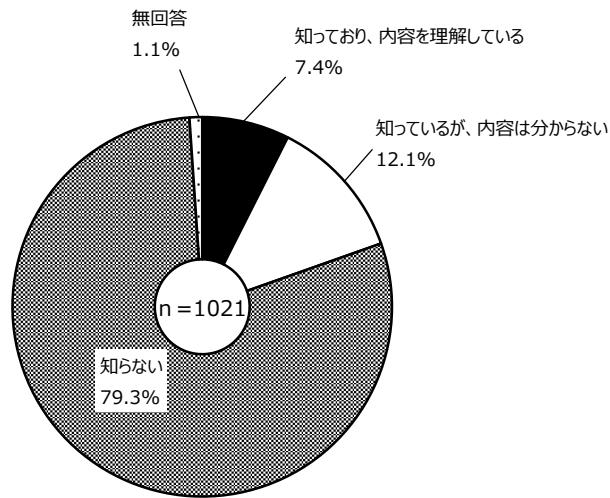


図 41 「地域猫活動」を知っているか

■「飼い主のいない猫」がもたらす問題は何か（n=1021：複数回答）

「ふん・尿被害、ごみ漁り等による生活環境の悪化」（84.5%）、「エサを与える時間や場所を決めていない身勝手なエサやり行為によるエサ皿やエサの放置」（54.2%）、「考え方の違いから生じる人間関係の悪化」（35.9%）、「虐待等の対象となる（動物愛護の観点）」（32.6%）の順になっている。

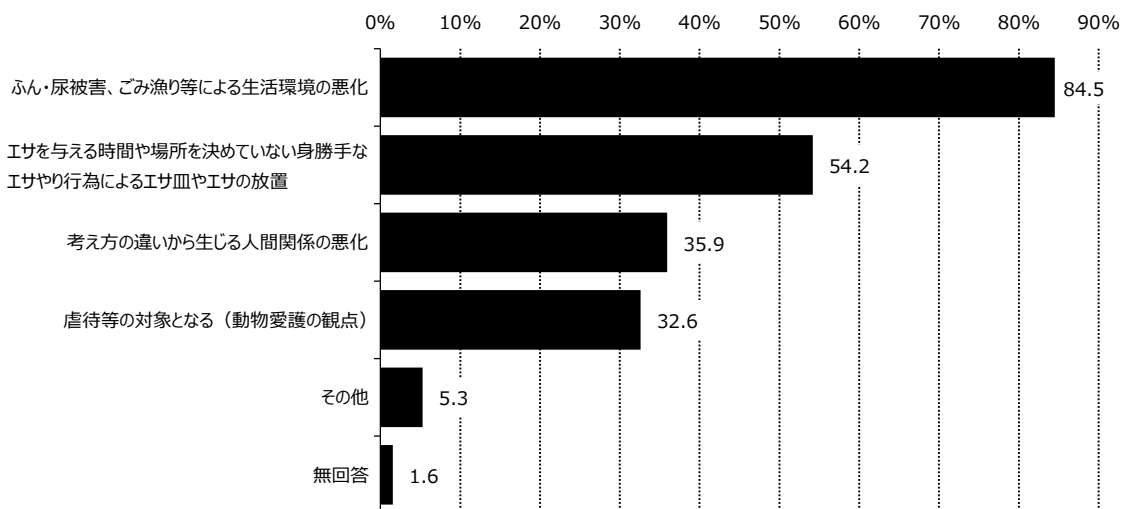


図 42 「飼い主のいない猫」がもたらす問題は何か

■「飼い主のいない猫」が増える原因は何か（n=1021：複数回答）

「捨て猫」（77.1%）、「飼い主のいない猫」の去勢・不妊手術が進んでいない」（60.0%）、「エサを与える時間や場所を決めていない身勝手なエサやり行為」（39.6%）、「飼い猫の屋外飼育」（30.2%）の順になっている。

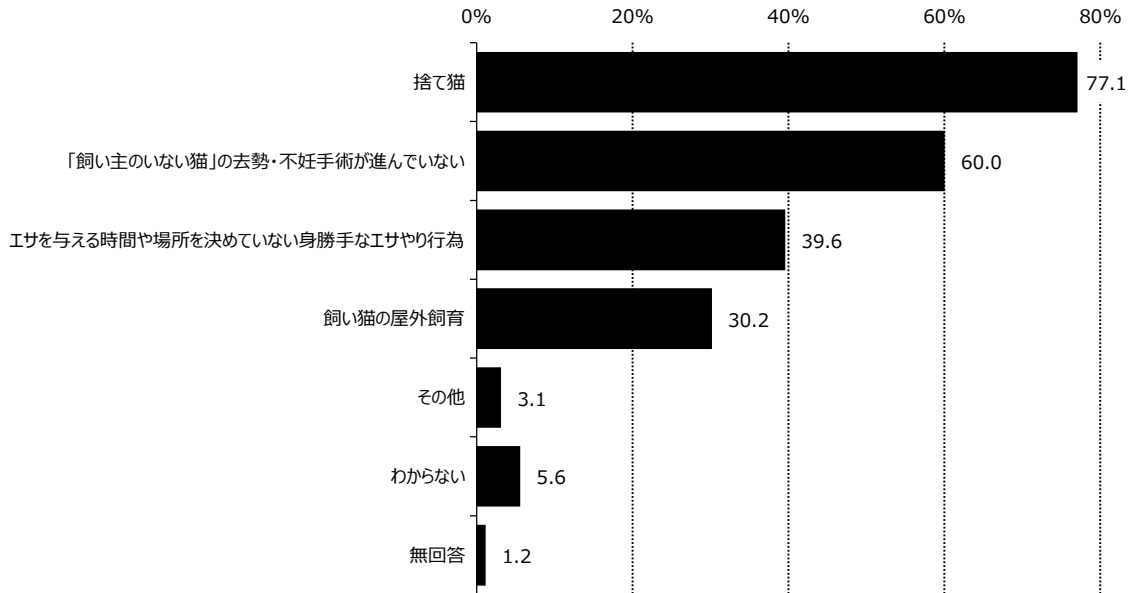


図 43 「飼い主のいない猫」が増える原因は何か

■「飼い主のいない猫」対策として有効と考えるもの（n=1021：複数回答）

「去勢・不妊手術の実施」（62.5%）が6割を超えて最も高くなっている。

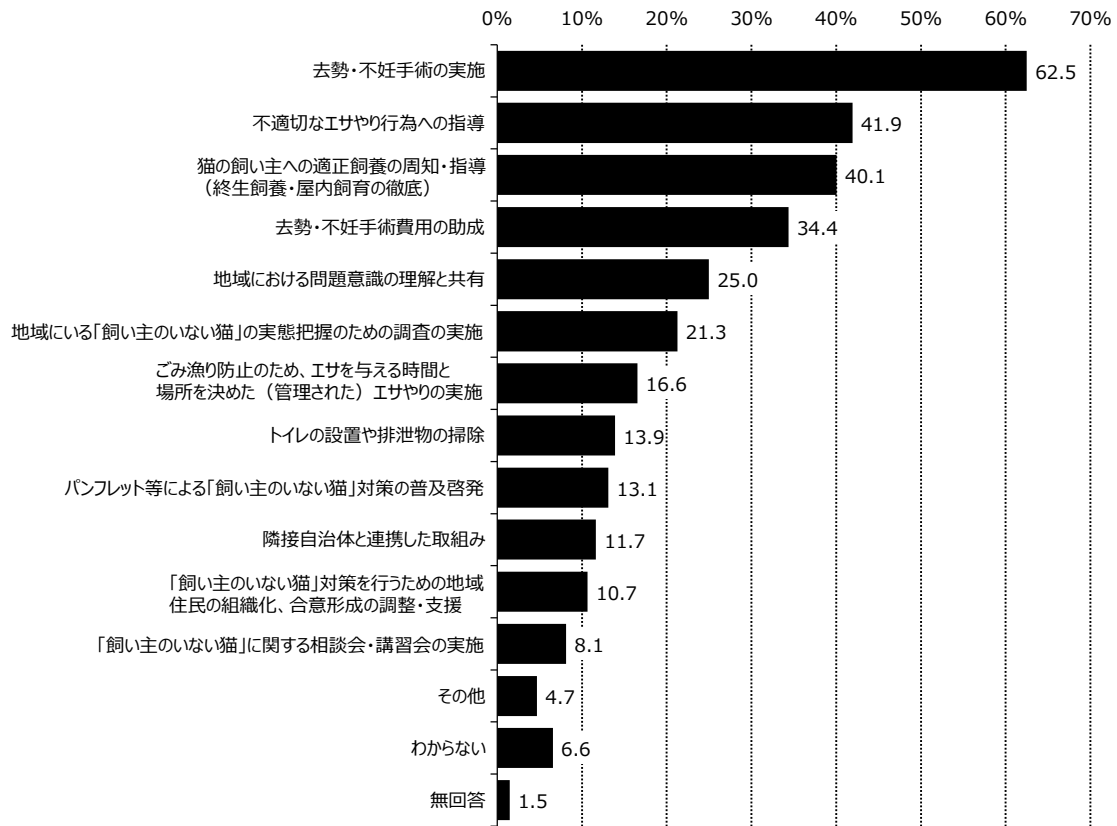


図 44 「飼い主のいない猫」対策として有効と考えるもの

■「飼い主のいない猫」対策への協力について（n=1021）

「協力はできないが、活動する方の否定はしない」（55.5%）が5割半ばとなっており、最も高い。

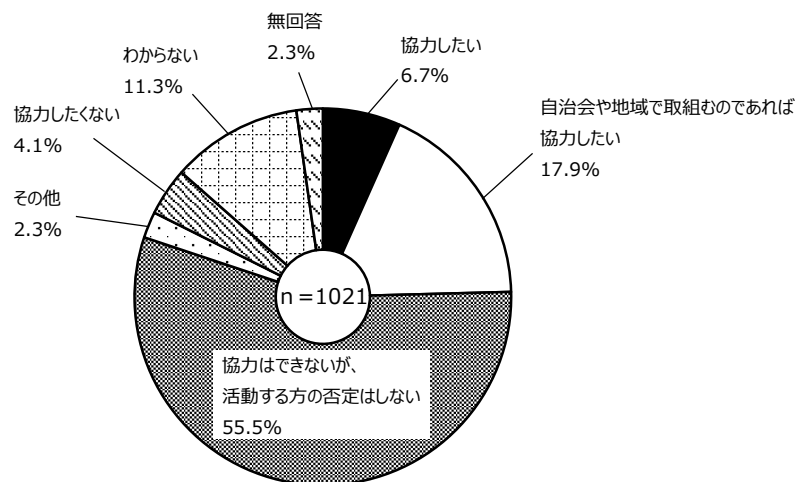


図 45 「飼い主のいない猫」対策への協力について

【環境問題に対する取組み】について

■ 環境に関する取組み (n=1021)

「取組んでいる」は、「レジ袋や過剰包装の辞退、マイバック等の使用に取組んでいる」(70.6%)、「照明器具を購入する際は、LED 製品を選んで購入している」(65.8%)、「エアコンを購入する際は、エコラベル等がついた環境にやさしい製品を選んで購入している」、「冷蔵庫を購入する際は、エコラベル等がついた環境にやさしい製品を選んで購入している」(44.0%)の順で高い。「取組んでいない」は、「太陽光発電システムを設置している」(88.2%)、「環境保全活動センターを積極的に活用し、情報収集やイベント等に参加している」(76.5%)、「高効率給湯器(エコキュート、エコジョーズ等)を設置している」(71.3%)の順で高い。

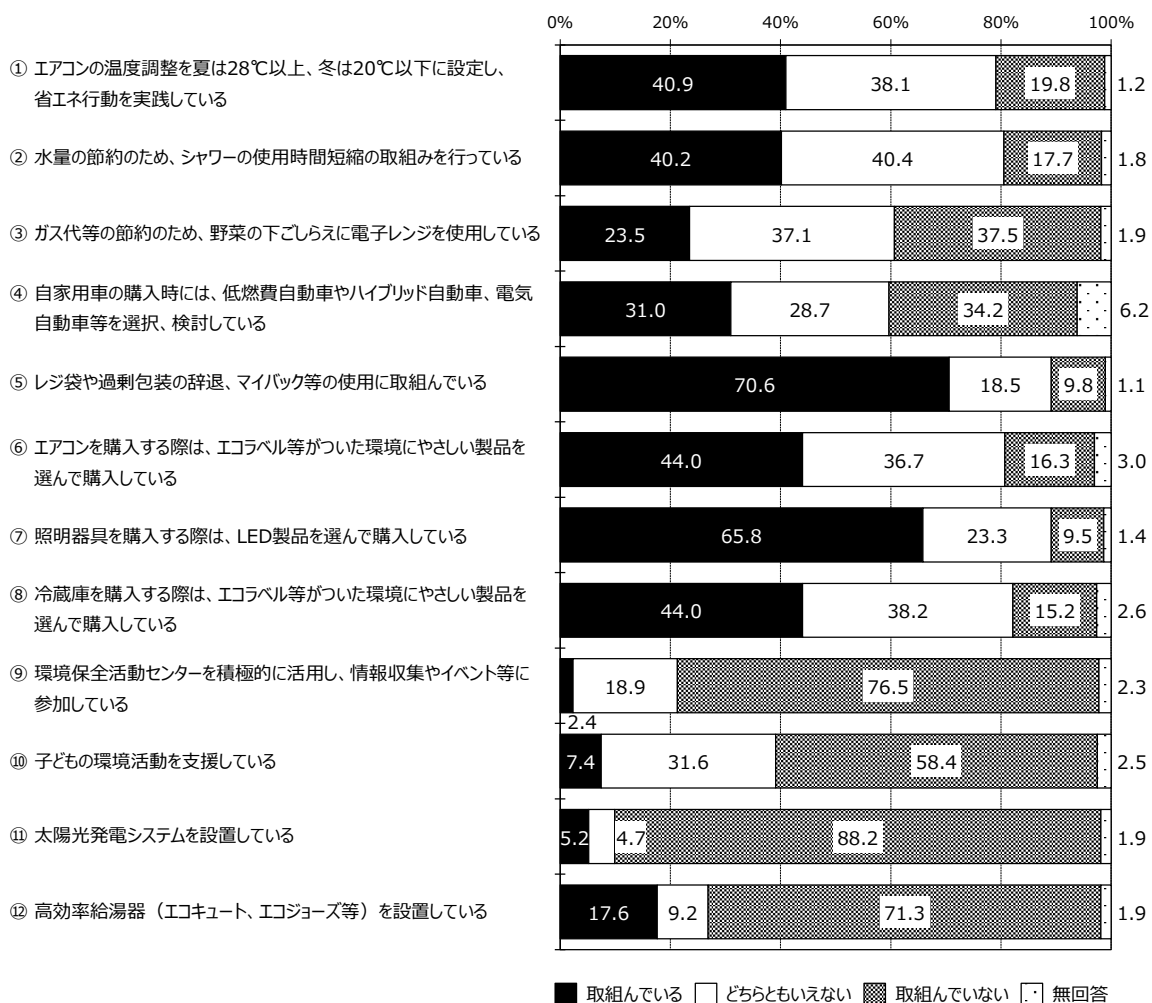


図 46 環境に関する取組み

【生物多様性地域戦略】について

■「生物多様性」という言葉を知っているか（n=1021）

「言葉の意味を知っている」（33.6%）、「意味は知らないが、聞いたことはある」（31.3%）、「聞いたことがない」（34.2%）は、ほぼ均等の3割程度となっている。

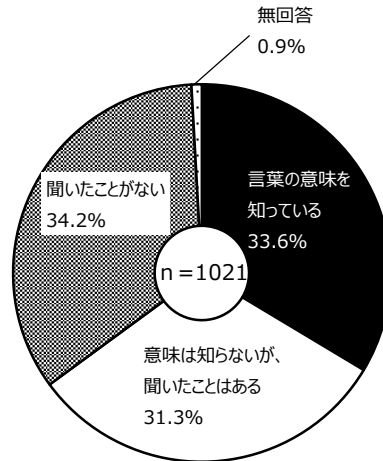


図 47 「生物多様性」という言葉を知っているか

■生物多様性保全活動に参加したいか（n=1021）

「内容によっては参加したい」（48.7%）が最も高く、続いて、「わからない」（31.9%）、「参加したくない」（15.1%）の順になっている。

また、どのような生物多様性保全活動であれば参加したいかについては、「自然観察会（自然観察ウォーキングツアー等）」（49.8%）、「生きもの調査（自然環境調査等）」（30.5%）、「自然体験活動（水辺の楽校等）」（24.4%）の順になっている。

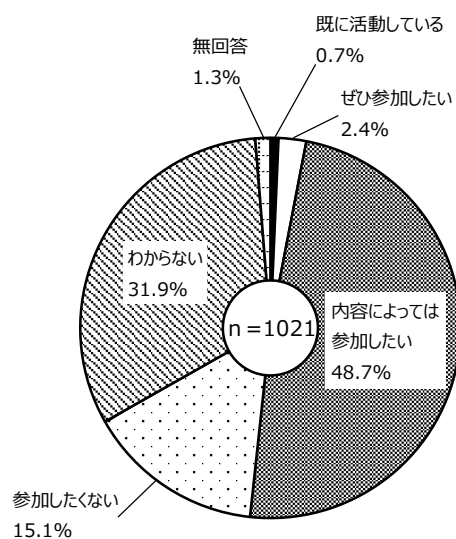
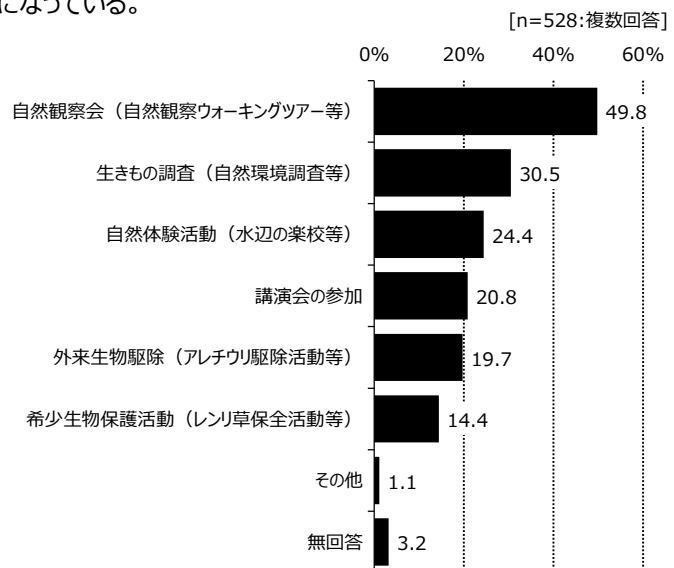


図 48 生物多様性保全活動に参加したいか



※図 48 で「既に活動している」「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を選択した回答者を対象とする

図 49 参加したいと思う生物多様性保全活動

■ 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること（n=1021）

「外来生物への対策」（43.5%）が最も高く、続いて、「生物多様性に関する情報の発信」（18.6%）、「教育・普及啓発の充実」（12.8%）となっている。

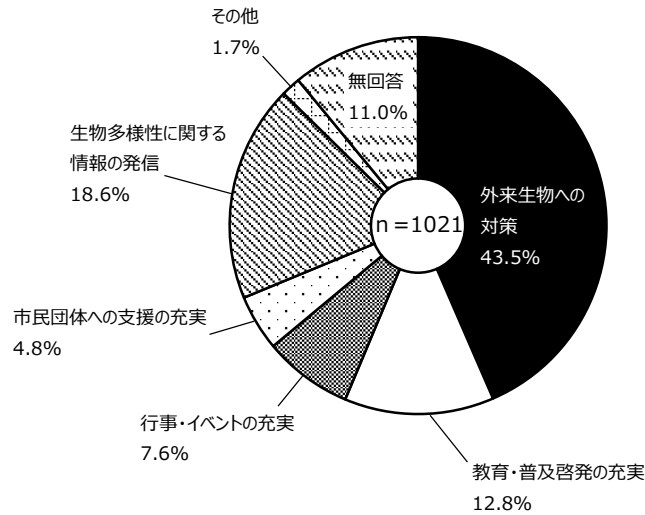


図 50 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること

【地区図書館】について

■ 市内 1 2 か所の地区図書館があることを知っているか（n=1021）

「知っている」（73.5%）が最も高く、7 割を超えている。

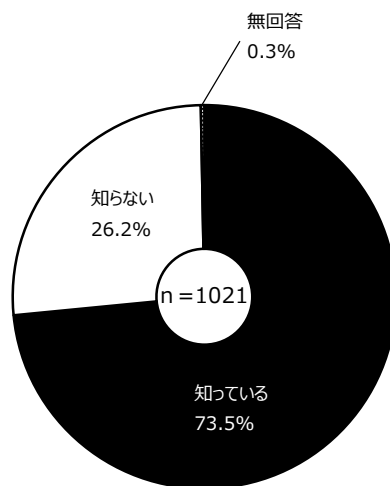


図 51 市内 1 2 か所の地区図書館があることを知っているか

■この1年以内に地区図書館を利用したか（n=1021）

「利用したことがない」（52.5%）、「利用したことがある」（45.5%）の順になっている。

また、地区図書館を利用しなかった理由として、「忙しくて図書館を利用する時間がない」（38.4%）が最も高い。続いて、「自分で購入するため、借りる必要がない」（32.8%）、「図書館に返却するのが面倒である」（21.3%）の順になっている。

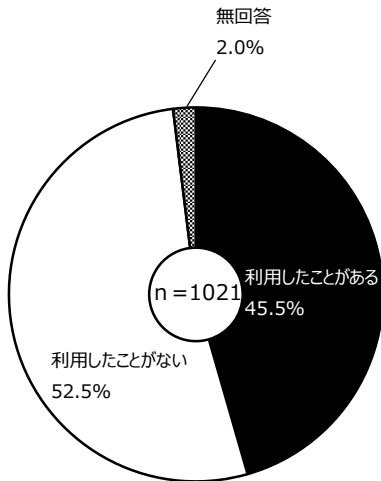
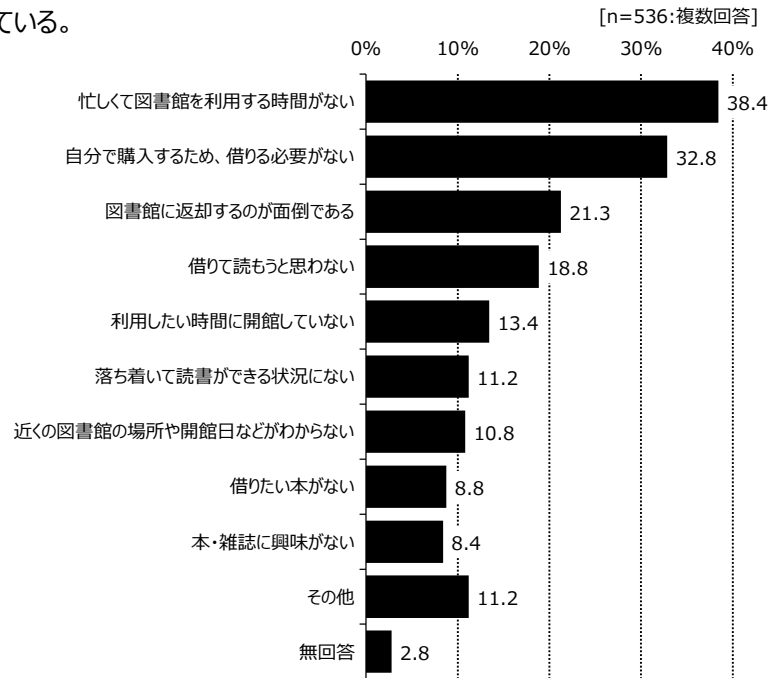


図 52 この1年以内に地区図書館を利用したか



※図 52 で「利用したことがない」を選択した回答者を対象とする

図 53 地区図書館を利用しなかった理由

■地区図書館に望むこと（n=1021：複数回答）

「図書資料の充実」（40.5%）、「開館時間の延長」（28.1%）、「自動貸し出し機の設置」（23.0%）、「新聞、雑誌の充実」（17.6%）の順になっている。

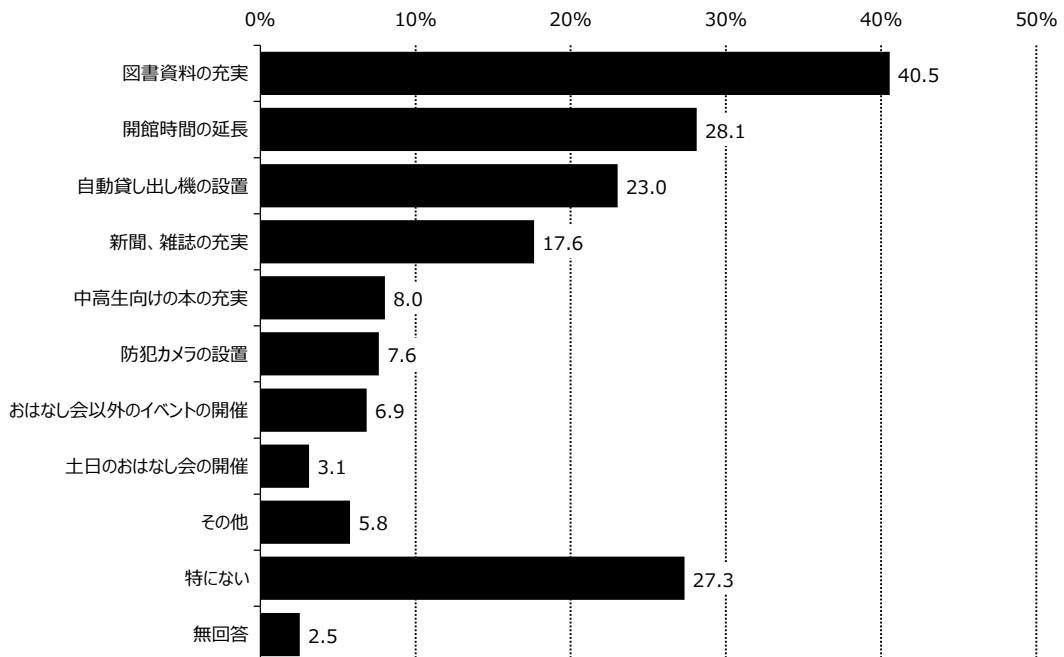


図 54 地区図書館に望むこと

【若者の自立】について

■ ひきこもりの若者が増えていると思うか (n=1021)

「そう思う」(21.4%)と「どちらかというと思う」(33.8%)を合わせた『思う』が5割を超えている(55.2%)。

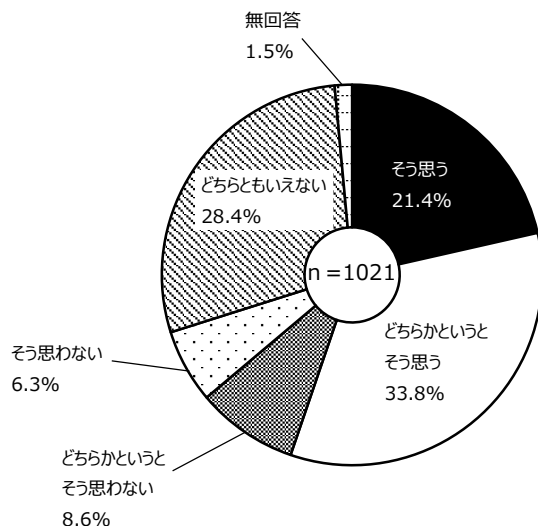
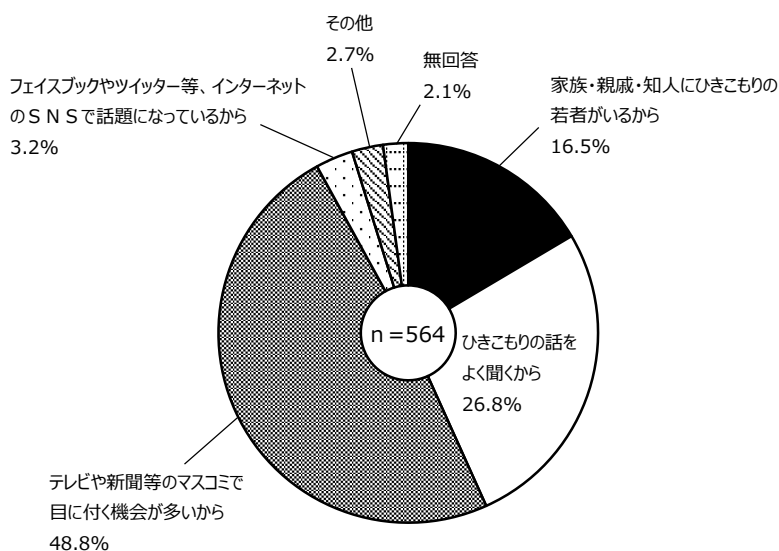


図 55 ひきこもりの若者が増えていると思うか

また、ひきこもりの若者が増えていると思う理由としては、「テレビや新聞等のマスコミで目に付く機会が多いから」(48.8%)が最も高く、5割近くを占めている。続いて、「ひきこもりの話をよく聞くから」(26.8%)、「家族・親戚・知人にひきこもりの若者がいるから」(16.5%)、「フェイスブックやツイッター等、インターネットのSNSで話題になっているから」(3.2%)の順になっている。



※図 55 で「そう思う」「どちらかというと思う」を選択した回答者を対象とする

図 56 ひきこもりの若者が増えていると思う理由

■ 家族の中に「ひきこもり」の状態に当てはまる人がいるか (n=1021)

「いない」(94.6%) が9割半ばを占めており、「いる」は4.5%となっている。

また、「ひきこもり」の状態にある方の年齢層については「20歳代」(26.1%)、性別は「男」(63.0%)、「ひきこもり」の期間については「4年以上」(50.0%) が最も高い。

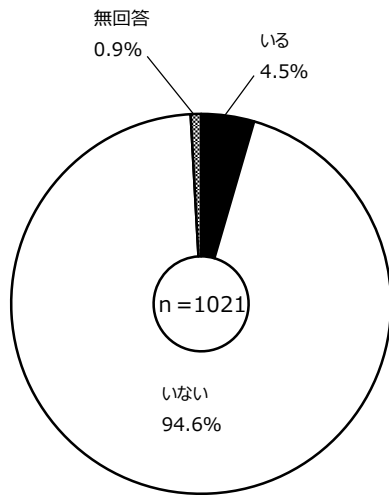
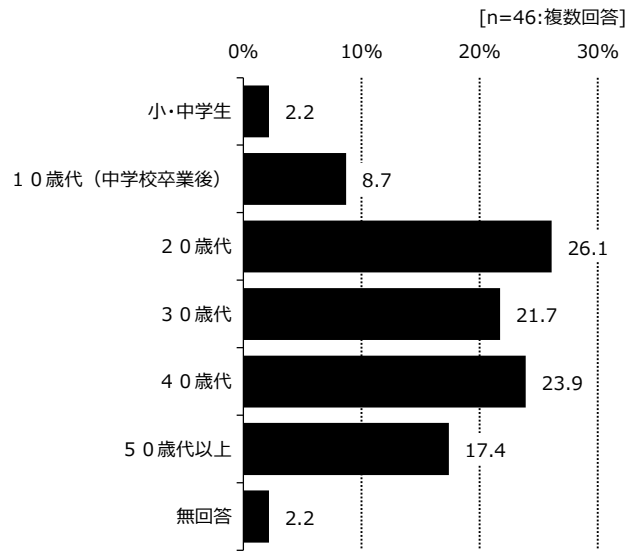
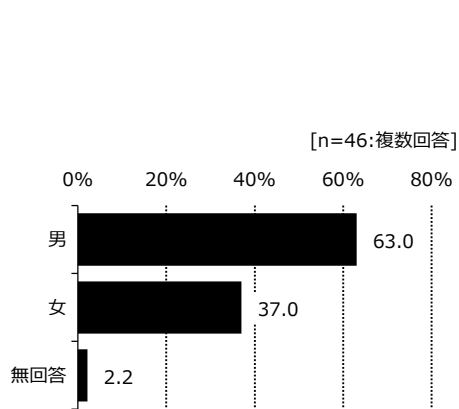


図 57 家族の中に「ひきこもり」の状態に当てはまる人がいるか



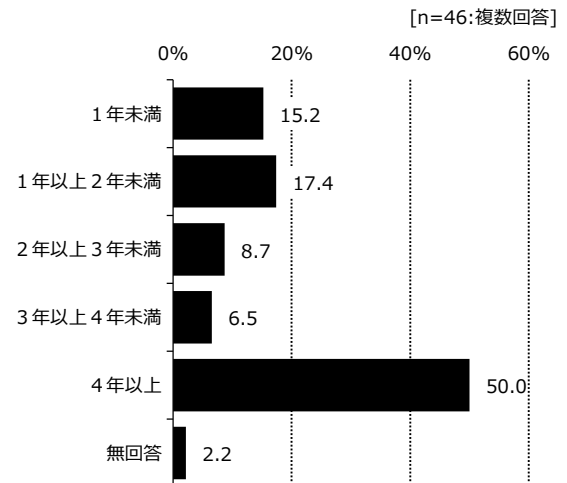
※図 57 で「いる」を選択した回答者を対象とする

図 58 「ひきこもり」の状態にある方の年齢層



※図 57 で「いる」を選択した回答者を対象とする

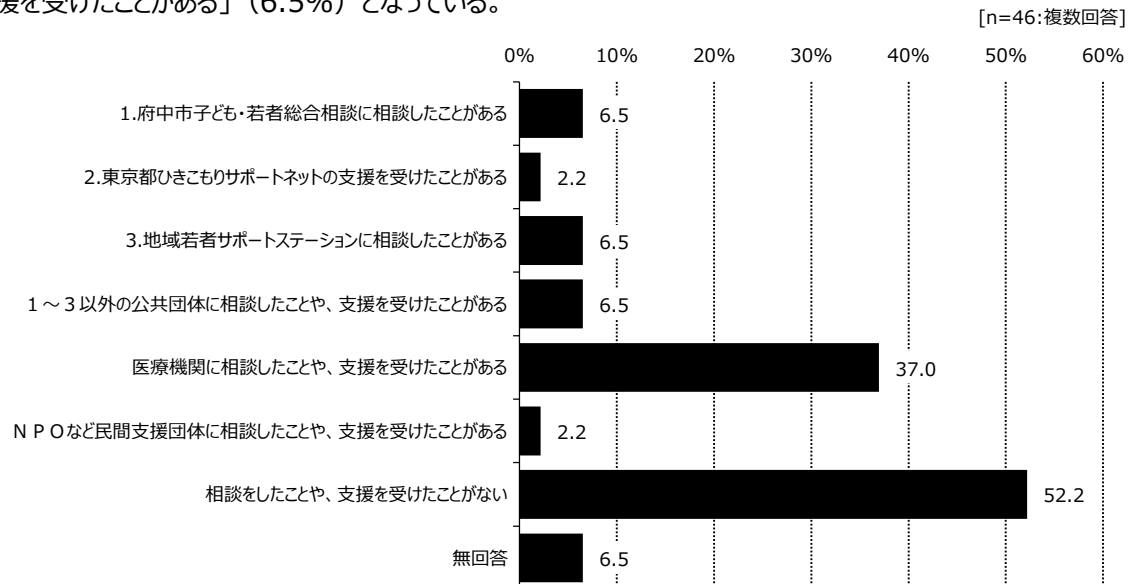
図 59 「ひきこもり」の状態にある方の性別



※図 57 で「いる」を選択した回答者を対象とする

図 60 「ひきこもり」の状態にある期間

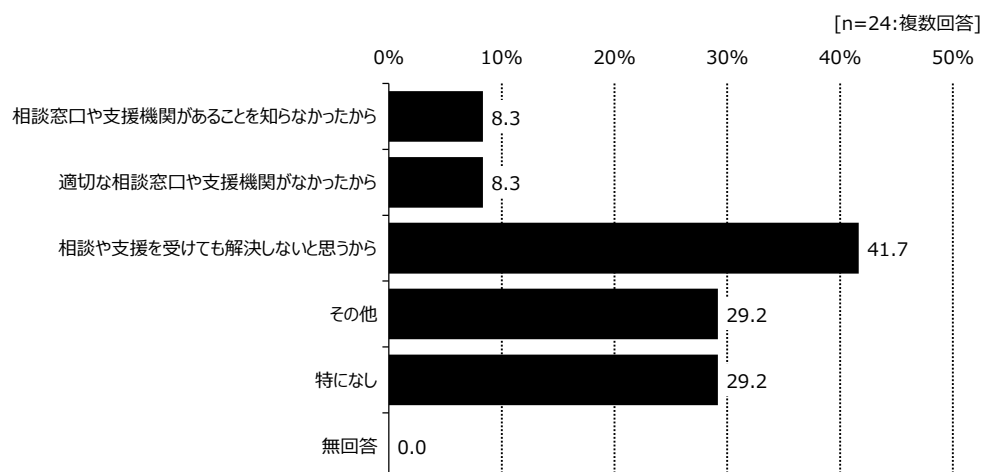
また、今までに関係機関に相談したことや、支援を受けたことがあるかについては、「相談をしたことや、支援を受けたことがない」（52.2%）が最も高く、5割を超えている。次いで、「医療機関に相談したことや、支援を受けたことがある」（37.0%）、「府中市子ども・若者総合相談に相談したことがある」、「地域若者サポートステーションに相談したことがある」、「1～3以外の公共団体に相談したことや、支援を受けたことがある」（6.5%）となっている。



※図 57 で「いる」を選択した回答者を対象とする

図 61 関係機関に相談したことや、支援を受けたことがあるか

また、今までに相談したことや支援を受けてこなかった理由としては、「相談や支援を受けても解決しないと思うから」（41.7%）が最も高く、「相談窓口や支援機関があることを知らなかったから」、「適切な相談窓口や支援機関がなかったから」（8.3%）となっている。



※図 61 で「相談をしたことや、支援を受けたことがない」を選択した回答者を対象とする

図 62 相談したことや支援を受けてこなかった理由

■「ひきこもり」に必要な支援（n=1021：複数回答）

「ひきこもりに対する正しい社会認識の理解と共有」（33.6%）が最も高く、「ひきこもり本人の職場体験や職業訓練の提供」（30.0%）、「保護者向けセミナーの実施」（25.6%）、「ひきこもり本人同士が交流する場の提供」（24.9%）と続いている。

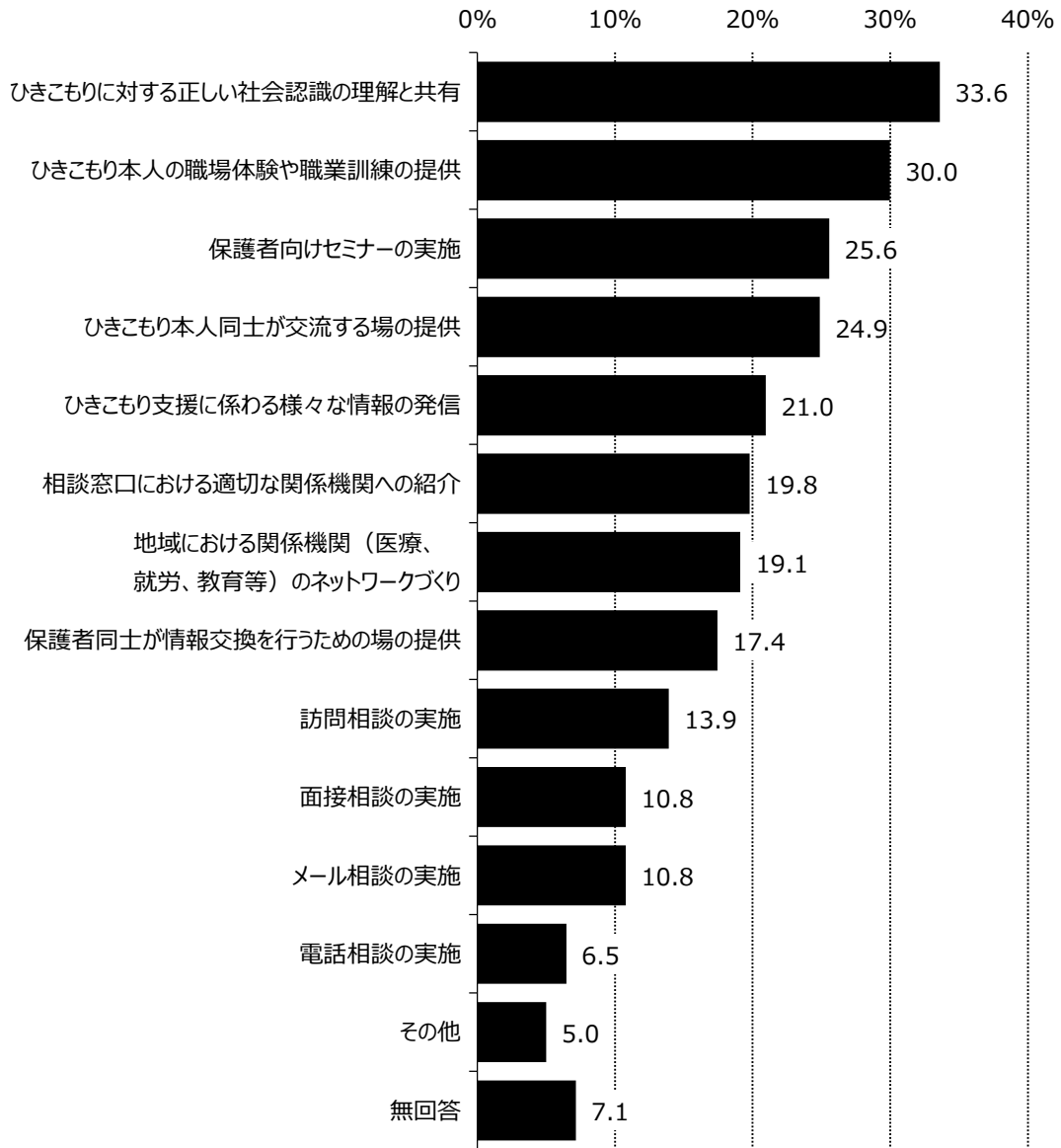


図 63 「ひきこもり」に必要な支援

第 50 回府中市市政世論調査（概要版）

平成 30 年 9 月

発行：府中市政策総務部広報課

東京都府中市宮西町二丁目 24 番地

Tel 042-366-1711

実施：株式会社 T D S

東京都府中市晴見町二丁目 24 番地の 1

Tel 042-352-3330